

令和6年度

授業計画

Syllabus 2024



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School



日本大学藤沢中学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Junior High School



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School

— 第 3 学年 —

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	論理国語	2	高校3年1組～6組(文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選論理国語』(東京書籍)	『共通テスト分野別対策ベーシックマスター国語 現代文』(Z会) 『三訂版 入試頻出漢字+現代文重要語彙 TOP2500』(いっぴく書店)

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章にふれ、論理的文章を読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通して、入試に対応できる応用力へと発展する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やし、知見を自分のものできている。また、筆者の主張を十分に理解した上で批判的に読むことができている。様々な文章に触れ、ものを考える上で求められる客観的思考を深めている。	教材をきちんと読んで、的確な読解ができている。筆者の主張を理解し、それに対する自分の意見を論理的に構成し、他者にわかりやすく説明することができる。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異文化に対する関心を持ち、身の回りの問題や社会全体で取り組むべき課題について自ら考えを深めようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法と語彙や漢字、慣用句、四字熟語といった知識を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	評論「言語と記号」 (丸山圭三郎) 問題演習	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・記号論を元にしたソシュール言語学の基本的な考え方を理解する。 ・従来の記号観では説明のつかない言語記号の特殊性とはどんなものかを理解する。 『ベーシックマスター』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
	6	評論「社会の壊れるときー知性的であるとはどういうことかー」 (鷲田清一)	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・筆者が「近代性」を軸として鋭く批判する現代社会のありようをとらえる。 ・「共存」の可能性を「摩擦」の中から見出すという逆説的な論旨の展開を正しく理解する。	
	7	問題演習	『ベーシックマスター』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
2	9	基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法や配点が高い構成を問う問題や内容合致問題を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物

	10	入試対策	希望大学レベルの問題に対応できる力を育成する。	
	11	演習問題	一般選抜で入学してくる学生と同じ程度の読解力を身に着ける。	
	12			

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	論理国語	2	高校3年11組(文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選 論理国語』(東京書籍)	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』(数研出版) 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』(数研出版) 『3訂版 入試頻出漢字+現代文重要語 TOP2500』(いっぴく書店)

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章にふれ、論理的文章を読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通して、入試に対応できる応用力へと発展する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やし、知見を自分のものできている。また、筆者の主張を十分に理解した上で批判的に読むことができている。様々な文章に触れ、ものを考える上で求められる客観的思考を深めている。	教材をきちんと読んで、的確な読解ができている。筆者の主張を理解し、それに対する自分の意見を論理的に構成し、他者にわかりやすく説明することができる。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異文化に対する関心を持ち、身の回りの問題や社会全体で取り組むべき課題について自ら考えを深めようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法と語彙や漢字、慣用句、四字熟語といった知識を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	評論「言語と記号」 (丸山圭三郎) 問題演習	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・記号論を元にしたソシュール言語学の基本的な考え方を理解する。 ・従来の記号観では説明のつかない言語記号の特殊性とはどんなものかを理解する。 『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
	6	評論「社会の壊れるとき— 知性的であるとはどういう ことか—」 (鷲田清一)	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・筆者が「近代性」を軸として鋭く批判する現代社会のありようをとらえる。 ・「共存」の可能性を「摩擦」の中から見出すという逆説的な論旨の展開を正しく理解する。	
	7	問題演習	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	

2	9	基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた，問題演習を行う。 ・論理的な解法や配点が高い構成を問う問題や内容合致問題を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	10	入試対策	希望大学レベルの問題に対応できる力を育成する。	
	11	入試対策	一般選抜で入学してくる学生と同じ程度の読解力を身に着ける。	
	12			

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	文学国語	2	高校3年1組～6組(文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『文学国語』（東京書籍）	『共通テスト分野別対策ベーシックマスター国語 現代文』（Z会） 『三訂版 入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500』（いっぴぐな書店） 『読み・書き・覚える 新版日本文学史必携』（第一学習社）

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章にふれ、筆者や作者の感じ方や思いを読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通し、入試に対応できる基礎力の徹底から応用力へと発展する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やし、自分で使いこなすことができる。また、筆者や作者の描く世界を味わうための知見を身につけている。登場人物の関係性や心情を的確に捉えている。	教材をきちんと読んで、的確な読解ができている。筆者や作者の主張を理解し、それに対する自分の意見を他者にわかりやすく説明するために工夫をしている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。文章の世界観やテーマに関心を持ち、言葉が持つ特質や物語を通して生きることへの考えを深めることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テスト過去問題集を用いた、問題演習を行う。 ・作者の思いを読解する力と語彙や漢字、慣用句、四字熟語といった知識を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	随筆「国語から旅立って」 (温又柔) 問題演習	教科書の文章を読む。筆者の思いの読み方を習得する。 ・母国語を日本語としない筆者の日本語との向き合い方を通して言語に思いをめぐらせる。 ・「他人の言葉ではなく、自分の言葉で世界を見つめる」にはどうしていく必要があるのか考える。 『ベーシックマスター』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
	6	随筆「クレールという女」 (須賀敦子)	教科書の文章を読む。作者の思いの読み方を習得する。 ・時間を隔てた読書体験の変化への気づきを読み取る。 ・優れた叙述や巧みな構成を通して自分自身のありようや、その具現化としての人生との向き合い方について考える。	
	7	問題演習	『ベーシックマスター』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
2	9	基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テスト過去問題集を用いた、問題演習を行う。 ・作者の思いを読解する力と配点が高い心情を問う	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験

			問題や内容合致問題を強化する。	提出物
	10	入試対策	希望大学レベルの問題に対応できる力を育成する。	
	11	演習問題	一般選抜で入学してくる学生と同じ程度の読解力を育成する。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	文学国語	3	高校3年11組(文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『文学国語』（東京書籍）	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』（数研出版） 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』（数研出版） 『新版 日本文学史必携』（第一学習社）

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章にふれ、筆者や作者の感じ方や思いを読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通し、入試に対応できる基礎力の徹底から応用力へと発展する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やし、自分で使いこなすことができる。また、筆者や作者の描く世界を味わうための知見を身につけている。登場人物の関係性や心情を的確に捉えている。	教材をきちんと読んで、的確な読解ができている。筆者や作者の主張を理解し、それに対する自分の意見を他者にわかりやすく説明するために工夫をしている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。文章の世界観やテーマに関心を持ち、言葉が持つ特質や物語を通して生きることへの考えを深めることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テスト過去問題集を用いた、問題演習を行う。 ・作者の思いを読解する力と語彙や漢字、慣用句、四字熟語といった知識を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	随筆「国語から旅立って」 (温又柔) 問題演習	教科書の文章を読む。筆者の思いの読み方を習得する。 ・母国語を日本語としない筆者の日本語との向き合い方を通して言語に思いをめぐらせる。 ・「他人の言葉ではなく、自分の言葉で世界を見つめる」にはどうしていく必要があるのか考える。 『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
	6	随筆「クレールという女」 (須賀敦子)	教科書の文章を読む。作者の思いの読み方を習得する。 ・時間を隔てた読書体験の変化への気づきを読み取る。 ・優れた叙述や巧みな構成を通して自分自身のありようや、その具現化としての人生との向き合い方について考える。	
	7	問題演習	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	

2	9	基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テスト過去問題集を用いた，問題演習を行う。 ・作者の思いを読解する力と配点が高い心情を問う問題や内容合致問題を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	10	入試対策	希望大学レベルの問題に対応できる力を育成する。	
	11	入試対策	一般選抜で入学してくる学生と同じ程度の読解力を育成する。	
	12			

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典探求	3	高校3学年7～10組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選 古典探究 古文編』(東京書籍) 『精選 古典探究 漢文編』(東京書籍)	『シンプルスタイルシリーズ古文単語 301』(尚文出版) 『新精選 古典文法 三訂版』(東京書籍) 『新精選 古典文法準拠ノート 改訂版』(東京書籍) 『新版 日本文学史必携』(第一学習社) 『～句法と語彙を一緒に学ぶ～必携新明説漢文』(尚文出版) 『大学入試共通テスト対応版 読解トレーニング 古典の演習 3』(啓隆社) 『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』(WENESS)

1. 学習の目標

古典作品を読むことで、その作者や登場人物という「他者」を知るとともに、その文化的背景や物の捉え方・考え方などを知ることによって、現在私たちが置かれている文化的背景・物を捉えるときの主観性・偏向性を認識しつつ相対化し、多様な物の捉え方・考え方の存在を認めるための基礎となる力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
教材をきちんと読んで的確な読解ができている。また、文章の文体を味わうことができている。さらに、様々な文化に対する関心を深めている。語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについて、的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。	自分の考えを他者に伝えるために、考えをまとめたりわかりやすくしたりするなど工夫している。また、他者の意見を的確に聞き取れている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異なる文化に対する関心を深め、進んで表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 古文『和泉式部日記』有明の月に	古典の学習目標、学習方法、ノートの取り方などを確認する。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。 日記を多面的・多角的な視点から捉え、考えを深める。 重要古語や助動詞の用法、敬語の意味などを確認する。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 など
	5	漢文『論語』『韓非子』『直躬』 『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』	『論語』と『韓非子』における「直躬」の評価を比較・検討することで、それぞれの思想の特色を捉える。 基礎学力到達度テストに向けて問題集を用いて演習を行う。	
	6	『源氏物語』『萩の上露』 『老子』『無為之治』	設定や和歌などに着目しながら、登場人物の心情を捉え、作品についての理解を深める。 敬語ならびに助詞を頼りに主語を確定する。 敬意の対象を確定することで物語の流れを掴む。 『老子』の文章を読み、道家思想の特徴を理解する。 否定・使役などの重要句法を確認・修得する。	
	7	『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』	基礎学力到達度テストに向けて問題集を用いて演習を行う。	

2	9	基礎学力到達度テスト対策	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 - など
	10	漢詩 「秋浦歌」李白 「登岳陽楼」杜甫 演習	漢詩のルールを再度確認しつつ、漢詩を味わう。 李白・杜甫それぞれの特徴について学ぶ。 適宜プリント等を用いて演習を行う。	
	11	『大学入試共通テスト対応 版 読解トレーニング 古典の演習 3』	古文・漢文の問題に慣れる。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典研究	2	高校3学年13組 (文理特進クラス)

使用教科書	副教材
『精選 古典探究 古文編』(東京書籍) 『精選 古典探究 漢文編』(東京書籍)	『シンプルスタイルシリーズ古文単語301』(尚文出版) 『新精選 古典文法 三訂版』(東京書籍) 『新精選 古典文法準拠ノート 改訂版』(東京書籍) 『新版 日本文学史必携』(第一学習社) 『～句法と語彙を一緒に学ぶ～必携新明説漢文』(尚文出版) 『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』(WENESS) 『新版 大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編』(数研出版)

1. 学習の目標

古典作品を読むことで、その作者や登場人物という「他者」を知るとともに、その文化的背景や物の捉え方・考え方などを知ることによって、現在私たちが置かれている文化的背景・物を捉えるときの主観性・偏向性を認識しつつ相対化し、多様な物の捉え方・考え方の存在を認めるための基礎となる力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
教材をきちんと読んで的確な読解ができている。また、文章の文体を味わうことができている。さらに、様々な文化に対する関心を深めている。語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについて、的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。	自分の考えを他者に伝えるために、考えをまとめたりわかりやすくしたりするなど工夫している。また、他者の意見を的確に聞き取れている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異なる文化に対する関心を深め、進んで表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 『和泉式部日記』有明の月に	古典の学習目標、学習方法、ノートの取り方などを確認する。 日記を多面的・多角的な視点から捉え、考えを深める。 重要古語や助動詞の用法、敬語の意味などを確認する。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 など
	5	漢文『論語』『韓非子』『直躬』 問題集	『論語』と『韓非子』における「直躬」の評価を比較・検討することで、それぞれの思想の特色を捉える。 演習問題に取り組み、実力養成を図る。	
	6	『源氏物語』『萩の上露』 『孟子』『無恒産無恒心』 『老子』『無為之治』	設定や和歌などに着目しながら、登場人物の心情を捉え、作品についての理解を深める。 敬語ならびに助詞を頼りに主語を確定する。 敬意の対象を確定することで物語の流れを掴む。 『孟子』と『老子』の文章を比較・検討し、それぞれの考える政治のあり方を学習することを通して、思想の特徴を理解する。 仮定・疑問・反語・否定・使役などの重要句法を確認・修得する。 演習問題に取り組み、実力養成を図る	
2	9	『大鏡』『三船の才』	歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト

	10	『楚辞』『漁父の辞』	作品を通して、人物や事件について作者がどのように思っているかを考える。 文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。 筆者の主張を捉え、さまざまなものの見方、考え方に触れる。 疑問・受身・使役・反語・選択・部分否定などの重要句法を確認・修得する。	・定期考査 ・提出物 - など
	11	問題集	問題演習に取り組み、実力養成を図る。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典研究	5	高校3学年1～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選 古典探究 古文編』(東京書籍) 『精選 古典探究 漢文編』(東京書籍)	『シンプルスタイルシリーズ古文単語 301』(尚文出版) 『新精選 古典文法 三訂版』(東京書籍) 『新精選 古典文法準拠ノート 改訂版』(東京書籍) 『新版 日本文学史必携』(第一学習社) 『～句法と語彙を一緒に学ぶ～必携新明説漢文』(尚文出版) 『大学入試共通テスト対応版 読解トレーニング 古典の演習 3』(啓隆社) 『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』(WENESS)

1. 学習の目標

古典作品を読むことで、その作者や登場人物という「他者」を知るとともに、その文化的背景や物の捉え方・考え方などを知ることによって、現在私たちが置かれている文化的背景・物を捉えるときの主観性・偏向性を認識しつつ相対化し、多様な物の捉え方・考え方の存在を認めるための基礎となる力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
教材をきちんと読んで的確な読解ができている。また、文章の文体を味わうことができている。さらに、様々な文化に対する関心を深めている。語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについて、的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。	自分の考えを他者に伝えるために、考えをまとめたりわかりやすくしたりするなど工夫している。また、他者の意見を的確に聞き取れている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異なる文化に対する関心を深め、進んで表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 古文『和泉式部日記』有明の月に	古典の学習目標、学習方法、ノートの取り方などを確認する。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。 日記を多面的・多角的な視点から捉え、考えを深める。 重要古語や助動詞の用法、敬語の意味などを確認する。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 など
	5	漢文『論語』『韓非子』『直躬』 『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』	『論語』と『韓非子』における「直躬」の評価を比較・検討することで、それぞれの思想の特色を捉える。 基礎学力到達度テストに向けて問題集を用いて演習を行う。	
	6	古文『源氏物語』『萩の上露』 漢文『孟子』『無恒産無恒心』 漢文『老子』『無為之治』	設定や和歌などに着目しながら、登場人物の心情を捉え、作品についての理解を深める。 敬語ならびに助詞を頼りに主語を確定する。 敬意の対象を確定することで物語の流れを掴む。 『孟子』と『老子』の文章を比較・検討し、それぞれの考える政治のあり方を学習することを通して、思想の特徴を理解する。 仮定・疑問・反語・否定・使役などの重要句法を確認・修得する。	

	7	『令和6年度基礎学力到達度テスト高3対策用模擬テスト』	基礎学力到達度テストに向けて問題集を用いて演習を行う。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策 古文『大鏡』『三船の才』	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。 歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。 作品を通して、人物や事件について作者がどのように思っているかを考える。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 など
	10	漢文『日本外史』『諸将服信玄』	漢文に親しみ、物語のおもしろさを味わう。 登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考える。 使役・否定・禁止・反語などの重要句法を確認・修得する。	
	11	『大学入試共通テスト対応版 読解トレーニング 古典の演習 3』	古文・漢文の問題に慣れる。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典研究	5	高校3学年11組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選 古典探究 古文編』(東京書籍) 『精選 古典探究 漢文編』(東京書籍)	『シンプルスタイルシリーズ古文単語301』(尚文出版) 『新精選 古典文法 三訂版』(東京書籍) 『新精選 古典文法準拠ノート 改訂版』(東京書籍) 『新版 日本文学史必携』(第一学習社) 『～句法と語彙を一緒に学ぶ～必携新明説漢文』(尚文出版) 『大学入試共通テスト対応版 読解トレーニング 古典の演習 3』(啓隆社) 『大学入学共通テスト 実践演習 古文・漢文編』(数研出版)

1. 学習の目標

古典作品を読むことで、その作者や登場人物という「他者」を知るとともに、その文化的背景や物の捉え方・考え方などを知ることによって、現在私たちが置かれている文化的背景・物を捉えるときの主観性・偏向性を認識しつつ相対化し、多様な物の捉え方・考え方の存在を認めるための基礎となる力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
教材をきちんと読んで的確な読解ができている。また、文章の文体を味わうことができている。さらに、様々な文化に対する関心を深めている。語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについて、的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。	自分の考えを他者に伝えるために、考えをまとめたりわかりやすくしたりするなど工夫している。また、他者の意見を的確に聞き取れている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異なる文化に対する関心を深め、進んで表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 古文『和泉式部日記』有明の月に	古典の学習目標、学習方法、ノートの取り方などを確認する。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。 日記を多面的・多角的な視点から捉え、考えを深める。 重要古語や助動詞の用法、敬語の意味などを確認する。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 - など
	5	漢文『論語』『韓非子』『直躬』 『大学入試共通テスト対応版 読解トレーニング 古典の演習 3』	『論語』と『韓非子』における「直躬」の評価を比較・検討することで、それぞれの思想の特色を捉える。 一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	
	6	古文『源氏物語』『萩の上露』 漢文『孟子』『無恒産無恒心』 漢文『老子』『無為之治』	設定や和歌などに着目しながら、登場人物の心情を捉え、作品についての理解を深める。 敬語ならびに助詞を頼りに主語を確定する。 敬意の対象を確定することで物語の流れを掴む。 『孟子』と『老子』の文章を比較・検討し、それぞれの考える政治のあり方を学習することを通して、思想の特徴を理解する。 仮定・疑問・反語・否定・使役などの重要句法を確認・修得する。	

	7	『大学入試共通テスト対応 版 読解トレーニング 古 典の演習 3』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策 古文『大鏡』『三船の才』	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。 歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。 作品を通して、人物や事件について作者がどのように思っているかを考える。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 など
	10	漢文『日本外史』『諸将服信 玄』	漢文に親しみ、物語のおもしろさを味わう。 登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考える。 使役・否定・禁止・反語などの重要句法を確認・修得する。	
	11	『大学入試共通テスト対応 版 読解トレーニング 古 典の演習 3』	古文・漢文の問題に慣れる。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代文特講Ⅱ	3	高校3年7組～10組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選論理国語』（東京書籍） 『文学国語』（東京書籍）	『共通テスト分野別対策ベーシックマスター国語 現代文』（Z会） 『三訂版 入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500』（いっぴぐな書店） 『読み・書き・覚える 新版日本文学史必携』（第一学習社）

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章にふれ、論理的文章を読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通して、入試に対応できる応用力へと発展する。近代以降の様々な文章にふれ、筆者や作者の感じ方や思いを読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通して、入試に対応できる基礎力の徹底から応用力へと発展する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やし、知見を自分のものできている。また、筆者の主張を十分に理解した上で批判的に読むことができている。様々な文章に触れ、ものを考える上で求められる客観的思考を深めている。	教材をきちんと読んで、的確な読解ができている。筆者の主張を理解し、それに対する自分の意見を論理的に構成し、他者にわかりやすく説明することができる。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化と異文化への理解や文章の世界観やテーマに関心を持ち、言葉が持つ特質や物語を通して生きることへの考えを深めることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法と語彙や漢字、慣用句、四字熟語といった知識を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	評論「言語と記号」 (丸山圭三郎) 随筆「国語から旅立って」 (温又柔) 問題演習	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・記号論を元にしたソシユール言語学の基本的な考え方を理解する。 ・従来の記号観では説明のつかない言語記号の特殊性とはどんなものかを理解する。 教科書の文章を読む。筆者の思いの読み方を習得する。 ・母国語を日本語としない筆者の日本語との向き合い方を通して言語に思いをめぐらせる。 ・「他人の言葉ではなく、自分の言葉で世界を見つめる」にはどうしていく必要があるのか考える。 『ベーシックマスター』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
	6	評論「社会の壊れるとき—知性的であるとはどういうことか—」 (鷲田清一)	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・筆者が「近代性」を軸として鋭く批判する現代社会のありようをとらえる。 ・「共存」の可能性を「摩擦」の中から見出すという逆説的な論旨の展開を正しく理解する。	

		随筆「クレールという女」 (須賀敦子)	教科書の文章を読む。作者の思いの読み方を習得する。 ・時間を隔てた読書体験の変化への気づきを読み取る。 ・優れた叙述や巧みな構成を通して自分自身のありようや、その具現化としての人生との向き合い方について考える。	
	7	問題演習	『ベーシックマスター』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
2	9	基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法や配点が高い構成を問う問題や内容合致問題を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	10	入試対策	希望大学レベルの問題に対応できる力を育成する。	
	11	演習問題	一般選抜で入学してくる学生と同じ程度の読解力を身に着ける。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代文特講Ⅱ	2	高校3年13組（文理特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『精選論理国語』（東京書籍） 『文学国語』（東京書籍）	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』 『三訂版入試頻出漢字+現代文重要語 TOP2500』（いっぴな書店） 『新版 日本文学史必携』（第一学習社）

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章にふれ、論理的文章を読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通して、入試に対応できる応用力へと発展する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やし、知見を自分のものできている。また、筆者の主張を十分に理解した上で批判的に読むことができる。様々な文章に触れ、ものを考える上で求められる客観的思考を深めている。作者の描く世界を味わうための知見を身に着けている。	教材をきちんと読んで、的確な読解ができている。筆者の主張を理解し、それに対する自分の意見を論理的に構成し、他者にわかりやすく説明することができる。 詩に描かれた作者の思いや情景描写を理解し、それに対する自分の意見を他者にわかりやすく説明するために工夫している。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異文化に対する関心を持ち、身の回りの問題や社会全体で取り組むべき課題について自ら考えを深めようとしている。 詩の世界観やテーマに関心を持ち、言葉が持つ特質や詩を通して生きることへの考えを深めることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法と語彙や漢字、慣用句、四字熟語といった知識を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	評論「言語と記号」 （丸山圭三郎） 問題演習	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・記号論を元にしたソシュール言語学の基本的な考え方を理解する。 ・従来の記号観では説明のつかない言語記号の特殊性とはどんなものかを理解する。 『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
	6	評論「社会の壊れるとき— 知性的であるとはどういう ことか—」 （鷲田清一） 詩「小諸なる古城のほとり」 （島崎藤村）	教科書の文章を読む。論理的な読み方を習得する。 ・筆者が「近代性」を軸として鋭く批判する現代社会のありようをとらえる。 ・「共存」の可能性を「摩擦」の中から見出すという逆説的な論旨の展開を正しく理解する。 教科書の詩を読む。 ・島崎藤村について学び、詩歌の表現の特色を理解し、情景を捉えて味わう。	

	7	問題演習	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』を用いて演習を行い、論理的な読解の解法と知識を強化する。	
2	9	基礎学力到達度テスト高3 過去問題集	基礎学力到達度テストの過去問題を用いた、問題演習を行う。 ・論理的な解法や配点が高い構成を問う問題や内容合致問題を強化する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	10	入試対策	希望大学レベルの問題に対応できる力を育成する。	
	11	入試対策	一般選抜で入学してくる学生と同じ程度の読解力を身に着ける。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語特講	4	高校3学年13組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選 論理国語』(東京書籍) 『文学国語』(東京書籍) 『精選 古典探究 古文編』(東京書籍) 『精選 古典探究 漢文編』(東京書籍)	『シンプルスタイルシリーズ古文単語301』(尚文出版) 『新精選 古典文法 三訂版』(東京書籍) 『新精選 古典文法準拠ノート 改訂版』(東京書籍) 『新版 日本文学史必携』(第一学習社) 『～句法と語彙を一緒に学ぶ～必携新明説漢文』(尚文出版) 『三訂版 プロGRESS 古典総演習 完成編』(いっずな書店) 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』(数研出版)

1. 学習の目標

作品を読むことで、その作者や登場人物という「他者」を知るとともに、その文化的背景や物の捉え方・考え方などを知ることによって、現在私たちが置かれている文化的背景・物を捉えときの主観性・偏向性を認識しつつ相対化し、多様な物の捉え方・考え方の存在を認めるための基礎となる力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
教材をきちんと読んで的確な読解ができている。また、文章の文体を味わうことができている。さらに、様々な文化に対する関心を深めている。語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについて、的確な知識を身に付け、作品の読解に活かしている。	自分の考えを他者に伝えるために、考えをまとめたりわかりやすくしたりするなど工夫している。また、他者の意見を的確に聞き取れている。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。日本文化の理解や異なる文化に対する関心を深め、進んで表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 『三訂版 プロGRESS 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	古典の学習目標、学習方法、ノートの取り方などを確認する。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き、問題に慣れる。 一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物 - など
	5	『三訂版 プロGRESS 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	
	6	『三訂版 プロGRESS 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	
	7	『三訂版 プロGRESS 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	

2	9	『三訂版 プログレス 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	・授業への取り組み ・小テスト ・木5テスト ・定期考査 ・提出物など
	10	『三訂版 プログレス 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	
	11	『三訂版 プログレス 古典総演習 完成編』 『論理的に読み・書く 現代文記述講座 標準編』	一般入試に向けて問題集を用いて演習を行う。	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語特講Ⅱ	3	高校3年12組 選択

使用教科書	副教材
『精選 論理国語』(東京書籍) 『文学国語』(東京書籍) 『精選 古典探究 古文編』(東京書籍) 『精選 古典探究 漢文編』(東京書籍)	『新版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編』(数研出版) 『大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編』(数研出版) 『新精選 古典文法 三訂版』(東京書籍) 『～句法と語彙を一緒に学ぶ～必携新名説漢文』(尚文出版) 『三訂版入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500』(いっずな書店) 『シンプルスタイルシリーズ古文単語 301』(尚文出版)

1. 学習の目標

論理的な文章を読み、筆者の考えを読み解く力を高めるとともに、ものの見方や考え方を深める。また、問題演習を通してさまざまな文章に触れ、入試に対応できる実力を身につける。また、古文・漢文の学習を通して、教養を身につけ、人生を豊かにする態度を身につけると同時に、入試に対応できる力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
筆者の主張を十分に理解し、客観的な思考を深めている。また、登場人物の関係性や心情を的確に捉えている。 古典作品の読解に必要な語彙を増やし、文法事項、作品の背景などを理解している。	的確な読解ができています。筆者の主張を理解した上で、それに対する自分の意見を持ち、他者に伝えたり、文章にしたりして表現できています。	自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。身の回りにある諸問題について関心を持ち、自ら考えを深めようとしている。日本文化への理解や異なる文化に対する関心を深めている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 現代文 評論 「言語と記号」 (丸山圭三郎)	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を用いた問題演習を行う。 従来の記号観では説明のつかない言語記号の特殊性とはどのようなものかを理解する。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物
	5	古文 日記 『十六夜日記』駿河路 (阿仏尼)	鎌倉下向の折の各地の様子や和歌を味わう。 重要古語、助動詞の用法、敬語の意味などを確認する。	
	6	現代文 評論 「社会の壊れるとき―知性的であるとはどういうことか―」 (鷲田清一)	筆者が「近代性」を軸として鋭く批判する現代社会のありようをとらえる。また、「共存」の可能性を「摩擦」の中から見出すという逆説的な論旨の展開を正しく理解する。	
	7	漢文問題演習 問題演習	演習問題を通して、重要句法を確認する。 さまざまな文章を読むことで、論理的な読み方を身につけ、入試に対応する実力をつける。幅広い教養を身につける。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策 問題演習	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を用いた問題演習を行う。 さまざまな文章を読むことで、論理的な読み方を身につけ、入試に対応する実力をつける。幅広い教養を身につける。	授業への取り組み 朝の小テスト 定期試験 提出物

	10	問題演習	さまざまな文章を読むことで、論理的な読み方を身につけ、入試に対応する実力をつける。幅広い教養を身につける。	
	11	問題演習	さまざまな文章を読むことで、論理的な読み方を身につけ、入試に対応する実力をつける。幅広い教養を身につける。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	地理研究	6	高校3年1, 4組（文系総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『新詳地理探究』（帝国書院） 『新詳高等地図』（帝国書院）	『新編：地理資料2022』（とうほう） 『データブックオブザワールド vol. 36：2024』（二宮書店） 『完全マスター地理B問題集：改訂版』（二宮書店）

1. 学習の目標

問題演習と並行してこれまでの学習内容を復習することで理解し直し、ポイントをつかんだ学習を目指す。また、新聞や図表類、写真を利用して文章理解力や読解力を身につけ、論理的思考力や表現力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
世界各地の姿や各地域で暮らす人々を、様々な図表・写真・新聞記事を扱って学ぶことで理解力を高める。	入試レベルの問題を通して、図表・写真から読み取れる情報を正しく理解するとともに、自ら文章化したり、作図することができる。	世界各地が密接に連携しあって今日の生活が成立していることを多面的・多角的にとらえることで、世界の将来あるべき姿を考える。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習（偶数中心） Ⅰ：系統地理 Ⅱ：世界地誌	・各項目について、これまでの内容を結びつけて大学入試問題を解く力を身につける。	定期試験 木5テスト 模試結果 小テスト 授業への取り組み 行動観察 提出物
	5	Ⅱ：世界地誌	・各項目について、これまでの内容を結びつけて大学入試問題を解く力を身につける。	
	6	問題演習（偶数中心） Ⅰ：系統地理 Ⅱ：世界地誌	・各項目について、これまでの内容を結びつけて大学入試問題を解く力を身につける。	
	7	Ⅱ：世界地誌	・各項目について、これまでの内容を結びつけて大学入試問題を解く力を身につける。	
2	9	系統分野総復習 地形図の読解 （基礎学力到達度テスト）	・1年～2年中盤までの内容を総復習することによって、問題演習の理解度をより高める。 ・実際の地形図を手にして、縮尺・地図記号・等高線などの基本事項をもとに地図を読む力を身につける。	定期試験 木5テスト 模試結果 小テスト 授業への取り組み 行動観察 提出物
	10	NIE （教育に新聞を）	・最近の新聞から地理に関する記事を提示することで、地理で学ぶ幅広さ、奥深さを理解し、地理は生活に根ざした内容であることを理解する。高校で学んだ事柄が身の回りで実際に起こっていることを理解し、新聞の有用性を理解する。限られたスペースで簡潔にまとめられている新聞記事を読むことで文章理解力を身につけ、論理的な思考力や偏らない発想力を養う。	
	11	景観を読む	・写真をもとに情報を得る力、読み解く力を養う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史研究	6	高校3年1～6組（文系総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『詳説日本史探究』（山川出版社）	『詳説日本史図録 第10版』（山川出版社） 『詳録 新日本史 史料集成』（第一学習社） 『山川 一問一答 日本史 第3版』（山川出版社） 『4ステージ演習ノート 日本史』（数研出版）

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に取り組む態度
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付ける。また、史料を読み取り、歴史的事象を追究する。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	9章 幕藩体制の成立と展開 4. 経済の発展 5. 元禄文化 原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・寛永期を画期として幕政が安定期を迎え、町人の経済的・文化的活動を活発化させ、元禄文化を開花させていった国内情勢を捉える。 ・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	5	10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・18世紀から19世紀にかけて、商人の台頭が目立つ一方で、農村の本百姓体制が崩壊し、幕藩体制の動揺が顕著になっていった様子を理解する。 ・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	
	6	3. 幕府の衰退と近代化への道 4. 化政文化 原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・幕府による諸改革にも関わらず国内情勢の悪化が深刻化し、19世紀に内憂外患が頂点に達して幕威が低下する様子を理解させるとともに、その一方で政治・社会・文化など多くの面で近代への胎動が強まる様子を考える。 ・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	
	7	原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	

2	9	原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	10	近現代史の概説	・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。 ・戦後政治の集大成となる日本国憲法の意義を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が集結し、日本が独立した意義を考える。 ・連合国による日本の占領が集結したことと、その後の日米関係の継続について様々な国の立場から考える。 ・独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となる経過を理解する。	
	11	近現代史の概説	・冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国などとの関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史研究	5	高校3年11組（文系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『詳説日本史探究』（山川出版社）	『詳説日本史図録 第10版』（山川出版社） 『詳録 新日本史 史料集成』（第一学習社） 『山川 一問一答 日本史 第3版』（山川出版社） 『4ステージ演習ノート 日本史』（数研出版）

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に取り組む態度
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付ける。また、史料を読み取り、歴史的事象を追究する。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	9章 幕藩体制の成立と展開 4. 経済の発展 5. 元禄文化	・寛永期を画期として幕政が安定期を迎え、町人の経済的・文化的活動を活発化させ、元禄文化を開花させていった国内情勢を捉える。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	5	10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化	・18世紀から19世紀にかけて、商人の台頭が目立つ一方で、農村の本百姓体制が崩壊し、幕藩体制の動揺が顕著になっていった様子を理解する。	
	6	3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化 原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・幕府による諸改革にも関わらず国内情勢の悪化が深刻化し、19世紀に内憂外患が頂点に達して幕威が低下する様子を理解させるとともに、その一方で政治・社会・文化など多くの面で近代への胎動が強まる様子を考える。 ・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	
	7	原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	

2	9	原始・古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識を定着する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	10	近現代史の概説	・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。 ・戦後政治の集大成となる日本国憲法の意義を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が集結し、日本が独立した意義を考える。 ・連合国による日本の占領が集結したことと、その後の日米関係の継続について様々な国の立場から考える。 ・独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となる経過を理解する。	
	11	近現代史の概説	・冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国などとの関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史研究	4	高校3年13組（文理特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『詳説日本史探究』（山川出版社）	『詳説日本史図録 第10版』（山川出版社） 『詳録 新日本史 史料集成』（第一学習社） 『山川 一問一答 日本史 第3版』（山川出版社） 『4ステージ演習ノート 日本史』（数研出版）

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に取り組む態度
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付ける。また、史料を読み取り、歴史的事象を追究する。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	9章 幕藩体制の成立と展開 4. 経済の発展 5. 元禄文化	・寛永期を画期として幕政が安定期を迎え、町人の経済的・文化的活動を活発化させ、元禄文化を開花させていった国内情勢を捉える。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	5	10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	・18世紀から19世紀にかけて、商人の台頭が目立つ一方で、農村の本百姓体制が崩壊し、幕藩体制の動揺が顕著になっていった様子を理解する。 ・幕府による諸改革にも関わらず国内情勢の悪化が深刻化し、19世紀に内憂外患が頂点に達して幕威が低下する様子を理解させるとともに、その一方で政治・社会・文化など多くの面で近代への胎動が強まる様子を考える。	
	6	近現代史の概説	・明治維新の前提として、1853年のペリー来航以後の国内外の情勢を捉える。 ・明治の前半期として、維新期に近代化の諸改革を遂行し、続いて立憲体制の樹立に努めた国内情勢を理解する。 ・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	
	7	近現代史の概説	・明治の後半期として、日清・日露戦争の前後における、条約改正、朝鮮問題、韓国併合などとの関係性や東アジアを中心とした国際情勢を理解する。 ・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	

2	9	近現代史の概説	・大正期に入り，日本が帝国主義列強の一員として国際政局に登場した概要を理解する。 ・第一次世界大戦，満州事変，日中戦争，第二次世界大戦，太平洋戦争と，戦争の道を進む状況を理解させるとともに，この間の大正デモクラシーといった文化的特徴を考える。 ・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	10	近現代史の概説 問題演習 (一般選抜対策)	・戦争の敗北によって，日本は史上初めて外国軍隊に占領されたが，その後の占領期の民主化政策と1950年代の独立回復の動きを考える。 ・独立後，経済・文化国家としての道を歩み，1960年代に高度経済成長を達成する日本の経済復興を世界的な視野から理解する。 ・1970年代から80年代にかけて経済大国として成長する日本の様子と，1990年代の現代，冷戦終結という新しい情勢の下で流動する内外情勢を分析する。 ・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	
	11	問題演習 (一般選抜対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史研究	6	高3年5・6組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史探究』(山川出版社)	『ニューステージ世界史詳覧』(浜島書店) 『大学入学共通テスト対応 30 テーマ 世界史問題集』(山川出版社) 『世界史B用語集 改訂版』(山川出版社) 『山川 一問一答世界史 第3版』(山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から世界史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	世界史の大きな枠組みと展開や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連に着目して、歴史に見られる課題を把握し解決の手段を構想する力や、説明・議論する力を養う。	世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本のみならず他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第11章：近世ヨーロッパ世界の動向 ・主権国家体制の成立 ・蘭・英・仏の台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	宗教改革以後の各国の宗教戦争を通じて、主権国家の形成と近代資本主義経済の世形成を理解する。 イギリス革命から議会と王権の関係を学び、立憲国家の形成を理解する。 主権国家の海外進出に起因する英仏の覇権争いを通じて、絶対王政国家の限界を理解する。 西欧の経済発展が、東欧の農場領主制の強化を生み、プロイセンやロシアなどの王権の強化をもたらしたことを理解する。 17～18世紀の科学革命と、啓蒙思想の普及による市民社会の成熟の過程を理解する。また、科学知識の成熟から産業革命が齎される歴史的背景を理解する。	授業態度 小テスト 定期試験
	5	第12章：産業革命と環大西洋革命 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオンの支配	産業革命によるイギリス資本主義経済の発展を理解する。 市民社会の成長を背景に、アメリカ合衆国が成立し、立憲国家が形成されたことを理解する。 フランス革命による国民国家の原則の確立を理解する。	

	6	第13章：イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・ウィーン体制 ・イギリスの自由主義体制と社会主義思想の成立 ・1848年革命 ・ドイツ帝国とビスマルク体制 ・アメリカ合衆国の発展	ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 イタリア・ドイツの統一、アメリカの南北戦争など国民国家の発展を軸に、19世紀後半の欧米諸国の動向について理解する。	
	7	・19C欧米の文化	19世紀の欧米文化の展開と市民文化の繁栄について理解する。	
2	9	第14章：アジア諸地域の動揺 ・オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚め ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 第15章：帝国主義とアジアの民族運動 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立 ・アジア諸国の改革と民族運動	イスラーム世界の改革運動について、西欧化、民族意識の高揚、イスラーム改革運動など諸側面を意識しながら理解する。 ヨーロッパ列強による植民地化の拡大と社会の変化、各地での民族意識の高まりについて理解する。 アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理して把握する。 欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。 19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。	※特別授業期間に実施
	10	第16章：・第一次世界大戦と世界の変容 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカの民族主義の進展 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略	第一次世界大戦の勃発とロシア革命の発生により、世界の秩序が新たな展開を迎えたことを理解する。また国際的な対立関係の動向、総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。 大戦後の欧米各国の社会状況を把握し、現代社会につながる大衆社会が出現したことの意味について考察する。 アジア・アフリカでの独立運動や国家形成の動きにおいて、国民国家の理念が果たした役割と問題点について考察する。	
	11	第17章：第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	世界恐慌によって国際協調主義から自国中心主義となり、第二次世界大戦に至る対立状況が生まれたことを認識する。 緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	
	12	第18章：冷戦と第三世界の台頭 ・戦後世界の秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 第19章：冷戦の終結と今日の世界	米ソ二極化による東西冷戦構造と、第三勢力の台頭を理解する。 各国の歴史を学びながら、戦後どのように政治や経済が動いたのかを理解する。 各国の対立構造を読み解き、問題解決の仕方について学ぶとともに、現在も解決していない問題について考察する。 冷戦の終結からソ連の崩壊、新たな地域紛争の激化など、世界史上の今日的課題を理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史研究	5	高3年11組 (文系特進クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史探究』(山川出版社)	『ニューステージ世界史詳覧』(浜島書店) 『大学入学共通テスト対応 30 テーマ 世界史問題集』(山川出版社) 『世界史B用語集 改訂版』(山川出版社) 『山川 一問一答世界史 第3版』(山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から世界史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	世界史の大きな枠組みと展開や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連に着目して、歴史に見られる課題を把握し解決の手段を構想する力や、説明・議論する力を養う。	世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本のみならず他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第11章：近世ヨーロッパ世界の動向 ・主権国家体制の成立 ・蘭・英・仏の台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	宗教改革以後の各国の宗教戦争を通じて、主権国家の形成と近代資本主義経済の世形成を理解する。 イギリス革命から議会と王権の関係を学び、立憲国家の形成を理解する。 主権国家の海外進出に起因する英仏の覇権争いを通じて、絶対王政国家の限界を理解する。 西欧の経済発展が、東欧の農場領主制の強化を生み、プロイセンやロシアなどの王権の強化をもたらしたことを理解する。 17～18世紀の科学革命と、啓蒙思想の普及による市民社会の成熟の過程を理解する。また、科学知識の成熟から産業革命が齎される歴史的背景を理解する。	授業態度 小テスト 定期試験
	5	第12章：産業革命と環大西洋革命 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオンの支配	産業革命によるイギリス資本主義経済の発展を理解する。 市民社会の成長を背景に、アメリカ合衆国が成立し、立憲国家が形成されたことを理解する。 フランス革命による国民国家の原則の確立を理解する。	
		第13章：イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・ウィーン体制 ・イギリスの自由主義体制	ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という	

	6	と社会主義思想の成立 ・1848年革命 ・ドイツ帝国とビスマルク体制 ・アメリカ合衆国の発展	時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 イタリア・ドイツの統一、アメリカの南北戦争など国民国家の発展を軸に、19世紀後半の欧米諸国の動向について理解する。	
	7	・19C欧米の文化	19世紀の欧米文化の展開と市民文化の繁栄について理解する。	
2	9	第14章：アジア諸地域の動揺 ・オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 第15章：帝国主義とアジアの民族運動 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立 ・アジア諸国の改革と民族運動	イスラーム世界の改革運動について、西欧化、民族意識の高揚、イスラーム改革運動など諸側面を意識しながら理解する。 ヨーロッパ列強による植民地化の拡大と社会の変化、各地での民族意識の高まりについて理解する。 アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理して把握する。 欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。 19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。	
	10	第16章：・第一次世界大戦と世界の変容 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカの民族主義の進展 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略	第一次世界大戦の勃発とロシア革命の発生により、世界の秩序が新たな展開を迎えたことを理解する。また国際的な対立関係の動向、総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。 大戦後の欧米各国の社会状況を把握し、現代社会につながる大衆社会が出現したことの意味について考察する。 アジア・アフリカでの独立運動や国家形成の動きにおいて、国民国家の理念が果たした役割と問題点について考察する。	
	11	第17章：第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	世界恐慌によって国際協調主義から自国中心主義となり、第二次世界大戦に至る対立状況が生まれたことを認識する。 緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	
	12	第18章：冷戦と第三世界の台頭 ・戦後世界の秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 第19章：冷戦の終結と今日の世界	米ソ二極化による東西冷戦構造と、第三勢力の台頭を理解する。 各国の歴史を学びながら、戦後どのように政治や経済が動いたのかを理解する。 各国の対立構造を読み解き、問題解決の仕方について学ぶとともに、現在も解決していない問題について考察する。 冷戦の終結からソ連の崩壊、新たな地域紛争の激化など、世界史上の今日的課題を理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史研究	4	高3年13組 (文理特進クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史探究』(山川出版社)	『ニューステージ世界史詳覧』(浜島書店) 『大学入学共通テスト対応 30 テーマ 世界史問題集』(山川出版社) 『世界史B用語集 改訂版』(山川出版社) 『山川 一問一答世界史 第3版』(山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から世界史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	世界史の大きな枠組みと展開や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連に着目して、歴史に見られる課題を把握し解決の手段を構想する力や、説明・議論する力を養う。	世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本のみならず他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第11章：近世ヨーロッパ世界の動向 ・主権国家体制の成立 ・蘭・英・仏の台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	宗教改革以後の各国の宗教戦争を通じて、主権国家の形成と近代資本主義経済の世形成を理解する。 イギリス革命から議会と王権の関係を学び、立憲国家の形成を理解する。 主権国家の海外進出に起因する英仏の覇権争いを通じて、絶対王政国家の限界を理解する。 西欧の経済発展が、東欧の農場領主制の強化を生み、プロイセンやロシアなどの王権の強化をもたらしたことを理解する。 17～18世紀の科学革命と、啓蒙思想の普及による市民社会の成熟の過程を理解する。また、科学知識の成熟から産業革命が齎される歴史的背景を理解する。	授業態度 小テスト 定期試験
	5	第12章：産業革命と環大西洋革命 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオンの支配	産業革命によるイギリス資本主義経済の発展を理解する。 市民社会の成長を背景に、アメリカ合衆国が成立し、立憲国家が形成されたことを理解する。 フランス革命による国民国家の原則の確立を理解する。	

	6	第13章：イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・ウィーン体制 ・イギリスの自由主義体制と社会主義思想の成立 ・1848年革命 ・ドイツ帝国とビスマルク体制 ・アメリカ合衆国の発展	ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 イタリア・ドイツの統一、アメリカの南北戦争など国民国家の発展を軸に、19世紀後半の欧米諸国の動向について理解する。	
	7	・19C欧米の文化	19世紀の欧米文化の展開と市民文化の繁栄について理解する。	
2	9	第14章：アジア諸地域の動揺 ・オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 第15章：帝国主義とアジアの民族運動 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立 ・アジア諸国の改革と民族運動	イスラーム世界の改革運動について、西欧化、民族意識の高揚、イスラーム改革運動など諸側面を意識しながら理解する。 ヨーロッパ列強による植民地化の拡大と社会の変化、各地での民族意識の高まりについて理解する。 アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理して把握する。 欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。 19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。	
	10	第16章：・第一次世界大戦と世界の変容 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカの民族主義の進展 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略	第一次世界大戦の勃発とロシア革命の発生により、世界の秩序が新たな展開を迎えたことを理解する。また国際的な対立関係の動向、総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。 大戦後の欧米各国の社会状況を把握し、現代社会につながる大衆社会が出現したことの意味について考察する。 アジア・アフリカでの独立運動や国家形成の動きにおいて、国民国家の理念が果たした役割と問題点について考察する。	
	11	第17章：第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	世界恐慌によって国際協調主義から自国中心主義となり、第二次世界大戦に至る対立状況が生まれたことを認識する。 緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	※特別授業期間に実施
	12	第18章：冷戦と第三世界の台頭 ・戦後世界の秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 第19章：冷戦の終結と今日の世界	米ソ二極化による東西冷戦構造と、第三勢力の台頭を理解する。 各国の歴史を学びながら、戦後どのように政治や経済が動いたのかを理解する。 各国の対立構造を読み解き、問題解決の仕方について学ぶとともに、現在も解決していない問題について考察する。 冷戦の終結からソ連の崩壊、新たな地域紛争の激化など、世界史上の今日的課題を理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史応用	4	高校3年11組（文系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『詳説日本史探究』（山川出版社）	『詳説日本史図録 第10版』（山川出版社） 『詳録 新日本史 史料集成』（第一学習社） 『山川 一問一答 日本史 第3版』（山川出版社） 『4ステージ演習ノート 日本史』（数研出版）

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に取り組む態度
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付ける。また、史料を読み取り、歴史的事象を追究する。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	近現代史の概説	- 明治維新の前提として、1853年のペリー来航以後の内外情勢を捉える。 - 明治の前半期として、明治初年の維新期に近代化の諸改革を遂行し、続いて立憲体制の樹立に努めた国内情勢を理解する。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	5	近現代史の概説	- 明治の後半期として、日清・日露戦争の前後における、条約改正、朝鮮問題、韓国併合などとの関係性や東アジアを中心とした国際情勢を理解する。 - 近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考える。	
	6	近現代史の概説	- 大正期に入り、日本が帝国主義列強の一員として国際政局に登場した概要を理解する。 - 第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争と、戦争の道を進む状況を理解させるとともに、この間の大正デモクラシーといった文化的特徴を把握する。 - 戦争の敗北によって、日本は史上初めて外国軍隊に占領されたが、その後の占領期の民主化政策と1950年代の独立回復の動きを考える。 - 独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の経済復興を世界的な視野から読み取る。 - 問題集を使用し、問題演習に取り組む。	

	7	近現代史の概説	・1970年代から80年代にかけて経済大国として成長する日本の様子と，1990年代の現代，冷戦終結という新しい情勢の下で流動する内外情勢を分析する。 ・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	
2	9	問題演習 (一般選抜対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト 定期試験
	10	問題演習 (一般選抜対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	
	11	問題演習 (一般選抜対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民	世界史応用	4	高校3年11組

使用教科書	副教材
『詳説 世界史探究』（山川出版社）	『NEW・STAGE 世界史詳覧』（浜島書店） 『センター形式 世界史問題集』（山川出版社） 『世界史B用語集』（山川出版社） 『一問一答 世界史』（山川出版社）

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することにより、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を身につけるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から世界史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	世界史の大きな枠組みと展開や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連に着目して、歴史に見られる課題を把握し解決の手段を構想する力や、説明・議論する力を養う。	世界史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本のみならず他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習一通史 古代オリエント 古代ギリシア 古代ローマ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	授業への取り組み・課題 定期試験
	5	問題演習一通史 イラン世界 インド世界 古代中国～明清	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	
	6	問題演習一通史 イスラーム世界 東南アジア 古アメリカ 中世ヨーロッパ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	
	7	問題演習一通史 近世ヨーロッパ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	

2	9	問題演習ー通史 近代ヨーロッパ 近代アジア・アフリカ 帝国主義～第二次大戦	・学習内容の復習により, 重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して, 基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	授業への取り組み・課題 定期試験
	10	テーマ史演習 共通テスト過去問研究	・学習内容の復習により, 重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して, 基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	倫理研究	6	高校3年4組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『高校倫理 新訂版』（実教出版）	『テオリア最新倫理資料集』（第一学習社）， 『2024 大学入学共通テスト 倫理重要問題集』（実教出版）

1. 学習の目標

人間尊重と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己確立を目指し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
政治・経済・社会・生活など様々な観点から歴史的事象を理解し、それらを背景に形成される哲学、思想を身につけることができる。	取り上げた先哲を、歴史的状況の中で理解することができる。また、学習の中で追求し、考察した過程や結果について、適切に表現する方法を身につけることができる。	思想に対する関心や、意欲を高めることができ、積極的に学習課題に取り組んでいる。また、学習内容を自分の身近なものとして捉えることができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	公共分野の復習	・市場経済の持つメカニズムについて理解し、需給の動向が市場に与える影響について学ぶ。 ・インフレとデフレの要因や、それによる社会全体への影響について学ぶ。 ・景気変動の要因について理解する。 ・財政活動による景気の調整や、国家予算の内訳、国債費の増加に伴う諸々の問題について理解する。 ・景気の変動が激しくなると経済が混乱する為、政府や金融が不況からの対策を講じる流れを俯瞰し、国民生活にそれぞれが及ぼす影響について考察する。	定期試験 提出物
	5	公共分野の復習	・戦後日本の経済の発展を時系列に眺め、その流れの中でターニングポイントとなる政策やそれに伴う物価の変動、諸問題について考察する。 ・日本経済における中小企業の意義について理解し、その可能性について模索する。 ・地球規模での問題といえる環境問題とその対策について学び、未来を担う責任を感じる。	
	6	公共分野の復習	・現代社会において消費者主権の観点から、どのような問題があるかを学ぶ。 ・働き方改革が叫ばれる中、より良い労働環境や労使関係とはどのようなものかを模索する。 ・近年、社会保障費の拡大が進み、若年層への負担増が叫ばれる中で、福祉国家としてこれからあるべき姿を模索する。 ・貿易のしくみと国際収支の各項目の内容を理解し、ボーダーレス化やグローバル化について考察する。	

	7	総復習	・これまで学んだ内容を，問題演習を通して復習し，入試に対応できる学力を身に着ける。	
2	9	総復習	・これまで学んだ内容を，問題演習を通して復習し，入試に対応できる学力を身に着ける。	定期試験 提出物
	10	総復習	・学年末試験対策や，これまで学んだことを基礎に倫理的なテーマを取り上げて，現代社会に生きる私たちの力をディベート等を通じて習得する。	
	11	総復習	・学年末試験対策や，これまで学んだことを基礎に倫理的なテーマを取り上げて，現代社会に生きる私たちの力をディベート等を通じて習得する。	

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	政治経済研究	6	高校3年5・6組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『政治・経済』（数研出版）	『2023 ズームアップ政治・経済資料』（実教出版） 『ベストセクション大学入学共通テスト 2024 政治・経済重要問題集』（実教出版）

1. 学習の目標

民主主義の本質について、理論的・体系的に学習することで理解を深める。現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に捉え、これらの理解を踏まえて現代の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につける。

2. 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習する態度
現代の政治・経済・国際関係に関する諸資料を様々なメディアを通じて収集し、活用する技能を身につけるとともに、現代政治・経済について歴史的・理論的な考察を通して、国家・社会、国際社会の一員として、平和で民主的な社会生活の実現と推進を図るための理解を深める。	学習の中で考察・追及した過程や結果について、適切に判断・表現し、現代の政治、経済、国際関係に関する諸課題を発見し、その本質や特質、さらにはそうした課題に関するの望ましい解決のあり方について、多面的・多角的に考察し、多元的な価値観に立脚して、様々な立場を踏まえた公正な判断をする能力を養う。	現代の諸課題について学習した内容を踏まえ、政治・経済に関する事象について関心を高めるとともに、グローバル社会の一員としての自覚をもち、飛躍的な技術の発展による従来の制度や法規範では対応できない問題に対しても意欲的・自主的に取り組む姿勢を養い、問題発見と問題解決という視点から、当事者意識をもって課題の発見と解決に努める姿勢を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第2編 第1章 現代経済のしくみと特質	・高2で学習した経済理論をベースに、日本経済の特徴としての中小企業、農業問題を考察する。中小企業については、問題点とともにベンチャーなど、その可能性にも触れ、現状の課題についても認識する。 ・農業問題は、農業基本法から新農業基本法への転換を振りかえりつつ、農業の現状と課題を提起できる視点を持つ。グローバルな視点から学習させ、国際的視野で、今後の打開策を検討する姿勢を養成する。	定期試験 提出物
	5	第1編 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	・日本国憲法の基本原則を中心に、人権、平和主義、国際協調主義と憲法の本質などを学び、世界的視野で安全保障を考える姿勢を身につける。人権については、新しい人権や判例を活用して理解を深める。 ・憲法条文を軸に三権の仕組み、日本の政治制度について考察し、政治を多角的に捉える姿勢を学ぶ。	
	6	第1編 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	・政党政治、選挙制度などを歴史的・理論的に扱い、民主主義の重要性を理解するとともに、その限界についても考察する。また、身近な問題として18歳選挙権や参政権、公正な政治とは何かについても考えることで、主権者としての自覚を高める。	

	7	第2編 第1章 現代経済の仕組みと特質	・近年の「働き方改革」を材料に、広く「労働問題」について学び、少子高齢化社会における社会保障の現状とあり方を、政府の財政資料等も参考にしながら探求し、変化する社会に対応する制度を模索する。	
2	9	第2章 現代の国際政治と日本	・国連を中心とする国際社会の仕組みと、戦後国際政治史の学習をベースに、現代の国際社会が抱える問題点を、当事者意識をもって考察しうる姿勢を養う。 ・人種、民族、食糧問題などに加え、ロシアのウクライナ侵攻や、その契機ともなった NATO の東方拡大など、時事問題にも触れ、国際政治社会への関心を深める。	定期試験 提出物
	10	第2章 現代の国際政治と日本 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法（復習）	・日本国憲法の平和主義が、世界的に見ても類を見ないものであることに留意しつつ、日本国民として世界平和にどのように寄与していくのか、グローバルな視点で模索する。	
	11	総復習	・市場、財政、金融分野の演習を活用した総復習。 ・日本の政治制度、各国の政治制度（大統領制と議院内閣制） ・人権保障の歴史と第3世代の人権 ・国際政治、国際経済	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	政治経済研究	4	高校3年13組 (文理特進クラス)

使用教科書	副教材
『政治・経済』(数研出版)	『2023 ズームアップ政治・経済資料』(実教出版) 『ベストセクション大学入学共通テスト 2024 政治・経済重要問題集』(実教出版)

1. 学習の目標

人間尊重と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己確立を目指し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。民主主義の本質について理解を深めるとともに、理論的・体系的に理解し、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に捉える。これらを踏まえて現代の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につける。

2. 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習する態度
現代の政治・経済・国際関係に関する諸資料を様々なメディアを通じて収集し、活用する技能を身につけるとともに、現代政治・経済について歴史的、理論的な考察を通して、国家・社会、国際社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進を図るための理解を深める。	学習の中で追及し、考察した過程や結果について適切に表現し、現代の政治、経済、国際関係に関する諸課題を発見し、その本質や特質、さらにはそうした課題に関する望ましい解決の在り方について、多面的・多角的に考察し、多元的な価値観に立脚して、様々な立場を踏まえた公正な判断をする能力を養う。	現代の諸課題について学習した内容を踏まえ、政治・経済に関する事象について関心を高めるとともに、グローバル社会の一員としての自覚をもち、飛躍的な技術の発展による、従来の制度や法規範では対応できない問題に対しても意欲的・自主的に取り組む姿勢を養い、問題発見と問題解決という視点から、当事者意識をもって問題の発見と解決に努める姿勢を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	民主政治の基本原則と日本国憲法	・日本国憲法の基本原則に沿って、人権、平和主義、日本の政治制度について学習する。基本的人権については、従来の人権体系を学ぶとともに、新しい人権の意味を考え、判例研究を活用しながら理解を深める。 ・政治史については、戦後を中心に政治・経済両面からアプローチすることで、民主主義の本質やその限界も併せて考察し、公正な政治を実現するための公民としての意識を高める。	定期試験 提出物
	5	民主政治の基本原則と日本国憲法	・選挙制度の種類や特徴に触れ、民主主義における国民の大切な権利である参政権を公正なものとするための施策についても思いを巡らせる。また、18歳選挙権や、18歳青年制などの、身近な問題を考えることで、主権者としての自覚を高める。	
	6	現代の国際政治と日本	・国連を中心に国際社会の仕組みを学び、人種、民族問題、国際紛争などを考察し、国際社会において日本の担う役割について考える意識を養成する。 ・ロシア問題や、EU、NATOなどの時事問題も扱うことで、国際問題に対する当事者意識を促す。	

	7	現代経済の仕組みと特質	・「働き方改革」を例に, 労働問題を総合的に考察し, 日本的雇用関係からの転換, 労働法規などを体系的に学習することで, 理解を深める。 ・憲法問題と絡めながら, 日本の「社会保障」の特質と問題点について考察する。	
2	9	総復習	既習の内容をもう一度解説し, 演習を通して知識の定着を図る。	定期試験 提出物
	10	総復習	既習の内容をもう一度解説し, 演習を通して知識の定着を図る。	
	11	総復習	既習の内容をもう一度解説し, 演習を通して知識の定着を図る。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅱ	3	高校3年1～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ』(啓林館), 『数学Ⅱ』(啓林館), 『数学A』(啓林館), 『数学B』(啓林館), 『数学C』(啓林館)	『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

数学Ⅰ, Ⅱ, A, B, Cの内容の考えについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用できるようにする。基礎学力到達度テストや大学入学共通テストに向けての問題演習を行い, 実践力を向上する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
数学Ⅰ, Ⅱ, A, B, Cの考えにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。事象を数学的に考察し, 処理する方法や表現の仕方, 推論の方法を身に付け, よりよく問題を解決している。	数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱ, A, B, Cの考えにおける見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱ, A, B, Cにおける考え方や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に進んで活用している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	数と式 2次関数	基礎学力到達度テスト対策演習 1. 式の計算 (1) 2. 式の計算 (2) 3. 1次不等式 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	図形と計量 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法	8. 2次方程式と2次不等式 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形 (1) 11. 三角比と図形 (2) 22. 式と証明 23. 複素数と方程式 (1) 24. 複素数と方程式 (2) 25. 点・直線・円 26. 曲線と直線 27. 軌跡と領域 28. 三角関数 (1) 29. 三角関数 (2) 30. 指数関数 31. 対数関数 32. 導関数と接線 33. 関数の値の変化, 最大・最小 34. 微分法の応用 35. 不定積分・定積分 36. 面積 (CHECK 問題を中心に扱う)	
	6		上記単元の反復練習 (STEP 問題を中心に扱う)	
	7		上記単元の反復練習 (STEP 問題を中心に扱う)	

2	9		基礎学力到達度テスト対策演習	定期試験
	10		問題演習等	
	11		問題演習等	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅲ	5	高校3年7～10組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅲ』(啓林館)	『マスグレードα 数学Ⅲ (Libry)』(啓林館)

1. 学習の目標

微分法, 積分法について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を身につけるとともに, 数学的な見方や考え方の重要性を認識できるようにする。
また, 大学入試頻出問題の演習を通して, 基礎学力到達度テスト等に向けての学力の向上を図るようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。また, その事象を数学化して数学的に解釈し, 数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け, 的確に問題を解決できる技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け, 思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	考え方に関心・意欲をもつとともに, 積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し, 問題解決の過程を振り返って考察を深め, 評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学対策 【数学Ⅲ】 第3章 微分法 第2節 いろいろな関数の導関数 1. 三角関数の導関数 2. 対数関数・指数関数の導関数 3. 方程式 $F(x, y)=0$ と微分 4. 高次導関数	基礎学力到達度テスト対策 対数関数の導関数, 対数を利用する微分法, 指数関数の導関数	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	第3節 導関数と関数のグラフ 1. 接線・法線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の増減 4. 第2次導関数とグラフ 第4節 微分法の応用 1. 最大・最小 2. 方程式・不等式への応用 3. 曲線の媒介変数表示と微分法 4. 速度と加速度 5. 関数の近似式	接線の方程式, 法線の方程式, 条件を満たす接線の方程式, $F(x, y)=0$ で表される曲線の接線 平均値の定理の利用 関数の増減, 関数の極大・極小, 微分可能でない点をもつ関数の極大・極小, 極致と関数の決定 グラフの凹凸と変曲点, グラフの概形, 第2次導関数と極大・極小 図形への応用 不等式の証明, 方程式の実数解の個数 曲線の媒介変数表示, サイクロイド, 媒介変数表示された関数の微分法 直線上の点の運動, 平面上の点の運動, いろいろな量の変化の速度	

	6	第4章 積分法 第1節 不定積分 1. 不定積分 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 1. 定積分 2. 定積分で表された関数の微分	x^a の不定積分, 定数倍・和・差の不定積分, 三角関数・指数関数の不定積分 $f(ax+b)$ の不定積分, 置換積分法, $f(g(x))g'(x)$ の不定積分, $g'(x)/g(x)$ の不定積分, 部分積分法 分数関数の不定積分, 三角関数の積の不定積分, 置換積分法を用いた三角関数の不定積分 定積分の置換積分法, 偶関数と奇関数の定積分, 定積分の部分積分法, 研究, 定積分を含む関数	
	7	3. 区分求積法と定積分	区分求積法, 和の極限, 定積分と不等式	
2	9	基礎学対策	基礎学力到達度テスト対策	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	第3節 積分法の応用 1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ	2 曲線間の面積, 曲線 $x=g(y)$ と面積, いろいろな曲線で囲まれた部分の面積, 媒介変数表示された曲線と面積 いろいろな立体の体積, x 軸のまわりの回転体の体積, y 軸のまわりの回転体の体積, いろいろな回転体の体積, 媒介変数表示された曲線の回転体の体積, 研究 媒介変数表示された曲線の長さ, 曲線 $y=f(x)$ の長さ, 直線上の点の速度と道のり, 平面上の点の道のり	
	11	問題演習	問題演習	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅲ	5	高校3年12組（理系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『数学Ⅲ』（啓林館）	『マスグレード 改訂版 数学Ⅲ』（啓林館） 『フォーカスゴールド 数学Ⅲ』（啓林館） 『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ 受験編』（数研出版）

1. 学習の目標

複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法とその応用、積分法、積分法の応用について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。数学Ⅲの発展的問題にふれ、大学入試の過去問題を通して、難関私大や国公立2次対応の記述力を高めるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらの知識を身に付けている。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する技術を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	入試問題演習	『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ』を用いた問題演習 Ⅰ. 複素数平面 1. 複素数の計算 2. 複素数と図形(1) 3. 複素数と図形(2) Ⅱ. 式と曲線 5. 2次曲線 6. 媒介変数表示 7. 極座標と極方程式	授業への取り組み 定期試験 提出物
	5	入試問題演習	Ⅲ. 関数 9. 分数関数・無理関数 10. 関数の性質 Ⅳ. 極限 12. 数列の極限 13. 無限級数	
	6	入試問題演習	14. 漸化式と極限(1) 15. 漸化式と極限(2) 16. 関数の極限 17. 関数の連続性 Ⅴ. 微分法とその応用 19. 導関数 20. 接線・法線 21. 関数の値の変化 22. 最大・最小	授業への取り組み 定期試験 提出物

2	7	入試問題演習	23. 方程式への応用 24. 不等式への応用 25. 平均値の定理・速度	
	9	入試問題演習	VI. 積分法 27. 不定積分 28. 定積分 29. 定積分で表された関数(1) 30. 定積分で表された関数(2) 31. 定積分と級数 32. 定積分と不等式	
	10	入試問題演習	VII. 積分法の応用 34. 面積(1) 35. 面積(2) 36. 体積 37. 種々の量の計算 (基本問題, A問題を中心に扱う) I. 複素数平面 ～ VII. 積分の応用 ※反復練習 (B問題を中心に扱う)	授業への取り組み 定期試験 提出物
	11	入試問題演習		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅲ	5	高校3年13組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅲ』(啓林館)	『マスグレード 改訂版 数学Ⅲ』(啓林館) 『フォーカスゴールド 数学Ⅲ』(啓林館) 『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法とその応用、積分法、積分法の応用について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。数学Ⅲの発展的問題にふれ、大学入試の過去問題を通して、難関私大や国公立2次対応の記述力を高めるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらの知識を身に付けている。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する技術を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	入試問題演習	『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ』を用いた問題演習 Ⅰ. 複素数平面 1. 複素数の計算 2. 複素数と図形(1) 3. 複素数と図形(2) Ⅱ. 式と曲線 5. 2次曲線 6. 媒介変数表示 7. 極座標と極方程式	授業への取り組み 定期試験 提出物
	5	入試問題演習	Ⅲ. 関数 9. 分数関数・無理関数 10. 関数の性質 Ⅳ. 極限 12. 数列の極限 13. 無限級数	
	6	入試問題演習	14. 漸化式と極限(1) 15. 漸化式と極限(2) 16. 関数の極限 17. 関数の連続性 Ⅴ. 微分法とその応用 19. 導関数 20. 接線・法線 21. 関数の値の変化 22. 最大・最小	授業への取り組み 定期試験 提出物

2	7	入試問題演習	23. 方程式への応用 24. 不等式への応用 25. 平均値の定理・速度	
	9	入試問題演習	VI. 積分法 27. 不定積分 28. 定積分 29. 定積分で表された関数(1) 30. 定積分で表された関数(2) 31. 定積分と級数 32. 定積分と不等式	
	10	入試問題演習	VII. 積分法の応用 34. 面積(1) 35. 面積(2) 36. 体積 37. 種々の量の計算 (基本問題, A問題を中心に扱う) I. 複素数平面 ～ VII. 積分の応用 ※反復練習 (B問題を中心に扱う)	授業への取り組み 定期試験 提出物
	11	入試問題演習		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学C	3	高校3年1～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副 教 材
『数学Ⅰ』(啓林館), 『数学A』(啓林館), 『数学Ⅱ』(啓林館), 『数学B』(啓林館), 『数学C』(啓林館)	『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を身につけるとともに、数学的な見方や考え方の重要性を認識できるようにする。
また、大学入試頻出問題の演習を通して、基礎学力到達度テスト等に向けての学力の向上を図るようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。また、その事象を数学化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力対策 (模擬テストを用いた演習) 【数学Ⅰ】	基礎学力到達度テスト対策 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 4. 集合 5. 命題と論証	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	【数学A】 【数学B】	15. 場合の数・順列(1) 16. 順列(2)・組合せ 17. 確率(1) 18. 確率(2) 19. 平面図形(1) 20. 平面図形(2) 21. 空間図形 37. 等差数列・等比数列 38. 種々の数列 39. 漸化式と数列	
	6	【数学C】	41. 統計的な推測(1) 42. 統計的な推測(2) 43. 統計的な推測(3) 44. ベクトルの基本 45. 平面ベクトルと図形 46. 空間ベクトルと図形 ※単元順は都合により変更される場合があります。 (CHECK 問題を中心に扱う)	
	7		※上記単元の反復練習 (STEP 問題を中心に扱う)	

2	9	基礎学対策	基礎学力到達度テスト対策	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10		問題演習など	
	11		問題演習など	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学C	4	高校3学年7組～10組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学C』(啓林館)	『マスグレードα 数学B+C』(啓林館) 『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C』(数研出版)

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能を習熟する。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付ける。そして、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばす。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。また、事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	3章 平面上の曲線 1節 2次曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線の共有点 6 2次曲線と離心率	x, y の2次方程式の表す図形 2次曲線と接線の方程式 切り取られる線分の中点	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	2節 媒介変数表示と極座標 1 曲線の媒介変数表示 2 極座標と極方程式 3 いろいろな曲線 《ニューステージ》 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質	三角関数を用いた媒介変数表示, サイクロイド 直交座標と極座標, 直交座標から極座標への変換, 極方程式と図形, 極方程式と直交座標の関係 リサージュ曲線, アステロイド, 正葉曲線, アルキメデスの渦巻線, リマソン 1. 式の計算(1) 2. 式の計算(2) 3. 1次不等式 4. 集合 5. 命題と論証 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小 8. 2次方程式と2次不等式 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形(1) 11. 三角比と図形(2) 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 14. 仮設検定の考え方 15. 場合の数・順列(1) 16. 順列(2)・組合せ 17. 確率(1) 18. 確率(2) 19. 平面図形(1) 20. 平面図形(2) 21. 空間図形	

		式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法 数列 確率分布と統計的な推測 平面上のベクトル 空間のベクトル 複素数平面 平面上の曲線	22. 式と証明 23. 複素数と方程式(1) 24. 複素数と方程式(2) 25. 点・直線・円 26. 曲線と直線 27. 軌跡と領域 28. 三角関数(1) 29. 三角関数(2) 30. 指数関数 31. 対数関数 32. 導関数と接線 33. 関数の値の変化, 最大・最小 34. 微分法の応用 35. 不定積分・定積分 36. 面積 37. 等差数列・等比数列 38. 種々の数列 39. 漸化式と数列 40. 数学的帰納法, 数列の応用 41. 統計的な推測(1) 42. 統計的な推測(2) 43. 統計的な推測(3) 44. ベクトルの基本 45. 平面ベクトルと図形 46. 空間ベクトルと図形 47. 複素数平面(1) 48. 複素数平面(2) 49. 2次曲線 50. 媒介変数表示, 極座標 中間試験 (50 項目の演習)	
	6		期末試験 (50 項目の反復)	
	7		期末試験 (50 項目の反復)	
	9		基礎学力到達度テストまで基礎学演習 期末試験 (50 項目の反復)	
2	10		期末試験 (50 項目の反復)	授業への取り組み 提出物
	11			小テスト 定期試験

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学C	4	高校3学年12組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学C』(啓林館)	スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)(数研出版)

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能を習熟する。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付ける。そして、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばす。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。また、事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B 数学C(ベクトル)	一般選抜に向けた問題演習 Ⅰ数と式 Ⅱ関数と方程式・不等式 Ⅲ式と証明、論理 Ⅳ整数の性質 Ⅴ場合の数と確率 Ⅵ図形の性質 Ⅶ図形と式 Ⅷ三角・指数・対数関数 Ⅸ微分法・積分法 Ⅹ数列 Ⅺベクトル Ⅻ統計 中間試験(上の12項目(4月:Ⅰ～Ⅻ)の基本問題、問題A、例題)	定期試験の成績 授業態度 小テスト 提出物 等
	5		中間試験(上の12項目(5月:Ⅰ～Ⅻ)の基本問題、問題A、例題)	
	6		期末試験(上の12項目(6月:Ⅰ～Ⅻ)の問題A、問題B、例題)	
	7		期末試験(上の12項目(7月:Ⅰ～Ⅻ)の問題A、問題B、例題)	
2	9		期末試験(上の12項目(9月:Ⅰ～Ⅵ, 10月Ⅶ～Ⅻ)のまとめの問題)	定期試験の成績 授業態度 小テスト 提出物 等
	10		期末試験(上の12項目(10月:Ⅰ～Ⅵ, 10月Ⅶ～Ⅻ)のまとめの問題)	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学C	4	高校3学年13組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学C』(啓林館)	スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)(数研出版)

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能を習熟する。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付ける。そして、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばす。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。また、事象を数学化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B 数学C(ベクトル)	一般選抜に向けた問題演習 Ⅰ数と式 Ⅱ関数と方程式・不等式 Ⅲ式と証明、論理 Ⅳ整数の性質 Ⅴ場合の数と確率 Ⅵ図形の性質 Ⅶ図形と式 Ⅷ三角・指数・対数関数 Ⅸ微分法・積分法 Ⅹ数列 Ⅺベクトル Ⅻ統計 中間試験(上の12項目(4月:Ⅰ～Ⅻ)の基本問題、問題A、例題)	定期試験の成績 授業態度 小テスト 提出物 等
	5		中間試験(上の12項目(5月:Ⅰ～Ⅻ)の基本問題、問題A、例題)	
	6		期末試験(上の12項目(6月:Ⅰ～Ⅻ)の問題A、問題B、例題)	
	7		期末試験(上の12項目(7月:Ⅰ～Ⅻ)の問題A、問題B、例題)	
2	9		期末試験(上の12項目(9月:Ⅰ～Ⅵ, 10月Ⅶ～Ⅻ)のまとめの問題)	定期試験の成績 授業態度 小テスト 提出物 等
	10		期末試験(上の12項目(10月:Ⅰ～Ⅵ, 10月Ⅶ～Ⅻ)のまとめの問題)	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅱ	4	高校3学年11組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
	ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B (数研出版) 大学入学共通テスト実践問題集 数学Ⅰ・A プレノート Half (数研出版) 大学入学共通テスト実践問題集 数学Ⅱ・B プレノート Half (数研出版)

1. 学習の目標

過去の入試問題を解き進めることによって、入試に必要な重要事項を再度確認し、大学入学共通テストレベルの問題に対応できる実践力を身につけることを目標とする。また、大学入試の頻出問題の演習を通じて、難関大学合格への学力を高める。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらの知識を身に付けている。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する技術を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【数学Ⅰ】	1. 式の計算 (1) 2. 式の計算 (2) 3. 1次不等式 4. 集合 5. 命題と論証 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小 8. 2次方程式と2次不等式 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形 (1) 11. 三角比と図形 (2) 実践問題—図形と数量 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 14. 仮説検定の考え方	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	【数学A】 【数学Ⅱ】	15. 場合の数・順列 (1) 16. 順列 (2)・組合せ 17. 確率 (1) 18. 確率 (2) 19. 平面図形 (1) 20. 平面図形 (2) 21. 空間図形 22. 式と証明 23. 複素数と方程式 (1) 24. 複素数と方程式 (2) 25. 点・直線・円 26. 曲線と直線	

			27. 軌跡と領域	
	6	【数学B】	28. 三角関数（1） 29. 三角関数（2） 30. 指数関数 31. 対数関数 32. 導関数と接線 33. 関数の値の変化，最大・最小 34. 微分法の実用 35. 不定積分・定積分 36. 面積 37. 等差数列・等比数列 38. 種々の数列 39. 漸化式と数列 40. 数学的帰納法，数列の実用 41. 統計的な推測（1） 42. 統計的な推測（2）	
	7		43. 統計的な推測（3）	
2	9	【数学C】	44. ベクトルの基本 45. 平面ベクトルと図形 46. 空間ベクトルと図形 実践問題－ベクトル 47. 複素数平面（1） 48. 複素数平面（2） 49. 2次曲線 50. 媒介変数表示，極座標 実践問題－複素数平面，式と曲線	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	総合演習	一般入試に向けた問題演習	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅲ	4	高校3学年12組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
	ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B (数研出版) 大学入学共通テスト実践問題集 数学Ⅰ・A プレノート Half (数研出版) 大学入学共通テスト実践問題集 数学Ⅱ・B プレノート Half (数研出版)

1. 学習の目標

過去の入試問題を解き進めることによって、入試に必要な重要事項を再度確認し、大学入学共通テストレベルの問題に対応できる実践力を身につけることを目標とする。また、大学入試の頻出問題の演習を通じて、難関大学合格への学力を高める。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらの知識を身に付けている。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する技術を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【数学Ⅰ】	1. 式の計算 (1) 2. 式の計算 (2) 3. 1次不等式 4. 集合 5. 命題と論証 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小 8. 2次方程式と2次不等式 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形 (1) 11. 三角比と図形 (2) 実践問題—図形と数量 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 14. 仮説検定の考え方	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	【数学A】 【数学Ⅱ】	15. 場合の数・順列 (1) 16. 順列 (2)・組合せ 17. 確率 (1) 18. 確率 (2) 19. 平面図形 (1) 20. 平面図形 (2) 21. 空間図形 22. 式と証明 23. 複素数と方程式 (1) 24. 複素数と方程式 (2) 25. 点・直線・円 26. 曲線と直線	

			27. 軌跡と領域	
	6	【数学B】	28. 三角関数（1） 29. 三角関数（2） 30. 指数関数 31. 対数関数 32. 導関数と接線 33. 関数の値の変化，最大・最小 34. 微分法の実用 35. 不定積分・定積分 36. 面積 37. 等差数列・等比数列 38. 種々の数列 39. 漸化式と数列 40. 数学的帰納法，数列の実用 41. 統計的な推測（1） 42. 統計的な推測（2）	
	7		43. 統計的な推測（3）	
2	9	【数学C】	44. ベクトルの基本 45. 平面ベクトルと図形 46. 空間ベクトルと図形 実践問題－ベクトル 47. 複素数平面（1） 48. 複素数平面（2） 49. 2次曲線 50. 媒介変数表示，極座標 実践問題－複素数平面，式と曲線	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	総合演習	一般入試に向けた問題演習	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅳ	5	高校3学年13組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
	ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B (数研出版) 大学入学共通テスト実践問題集 数学Ⅰ・A プレノート Half (数研出版) 大学入学共通テスト実践問題集 数学Ⅱ・B プレノート Half (数研出版)

1. 学習の目標

過去の入試問題を解き進めることによって、入試に必要な重要事項を再度確認し、大学入学共通テストレベルの問題に対応できる実践力を身につけることを目標とする。また、大学入試の頻出問題の演習を通じて、難関大学合格への学力を高める。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらの知識を身に付けている。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する技術を身に付けている。	数学的な活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている。	数学的な活動を通して、考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【数学Ⅰ】	1. 式の計算 (1) 2. 式の計算 (2) 3. 1次不等式 4. 集合 5. 命題と論証 実践問題—数と式、集合と命題 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小 8. 2次方程式と2次不等式 実践問題—2次関数 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形 (1) 11. 三角比と図形 (2) 実践問題—図形と数量 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 14. 仮説検定の考え方 実践問題—データの分析	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	【数学A】	15. 場合の数・順列 (1) 16. 順列 (2)・組合せ 17. 確率 (1) 18. 確率 (2) 実践問題—場合の数と確率 19. 平面図形 (1) 20. 平面図形 (2) 21. 空間図形 実践問題—図形の性質	

		【数学Ⅱ】	22. 式と証明 23. 複素数と方程式（１） 24. 複素数と方程式（２） 25. 点・直線・円 26. 曲線と直線 27. 軌跡と領域 実践問題－図形と方程式	
	6	【数学B】	28. 三角関数（１） 29. 三角関数（２） 30. 指数関数 31. 対数関数 実践問題－指数関数と対数関数 32. 導関数と接線 33. 関数の値の変化，最大・最小 34. 微分法の実用 35. 不定積分・定積分 36. 面積 実践問題－微分法と積分法 37. 等差数列・等比数列 38. 種々の数列 39. 漸化式と数列 40. 数学的帰納法，数列の実用 実践問題－数列 41. 統計的な推測（１） 42. 統計的な推測（２） 43. 統計的な推測（３）	
	7		実践問題－統計的な推測	
2	9	【数学C】	44. ベクトルの基本 45. 平面ベクトルと図形 46. 空間ベクトルと図形 実践問題－ベクトル 47. 複素数平面（１） 48. 複素数平面（２） 49. 2次曲線 50. 媒介変数表示，極座標 実践問題－複素数平面，式と曲線	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	総合演習	一般入試に向けた問題演習	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理	4	高校3年8組～10組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』(数研出版) 『総合物理Ⅱ』(数研出版)	『センサー総合物理』(啓林館), 『改訂版大学入試センター試験対策 チェック&演習物理』 (数研出版)

1. 学習の目標

物理現象を理解し、数学的な用法を用いて表すことが出来るようになる。物理事象の問題を理解し、解法を導き出す能力を身につけるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	身近な物理現象に興味、関心をもち、意欲的にそれらを学び、物理という学問について探求することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	電流 電流と磁場	直流回路 半導体 磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波	
	6	電子と光	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性	
	7	原子と原子核	原子の構造とエネルギー順位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子	
2	9	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	11	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理	4	高校3年12組（理系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』（数研出版） 『総合物理Ⅱ』（数研出版）	『センサー総合物理』（啓林館）， 『新程版 大学入試センター試験対策 チェック&演習 物理』（数研出版）

1. 学習の目標

物理現象を理解し、数学的な用法を用いて表すことが出来るようになる。物理事象の問題を理解し、解法を導き出す能力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	身近な物理現象に興味、関心をもち、意欲的にそれらを学び、物理という学問について探求することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	6	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	7	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
2	9	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	11	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理	4	高校3年13組（文理特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』（数研出版） 『総合物理Ⅱ』（数研出版）	『センサー総合物理』（啓林館）， 『新程版 大学入試センター試験対策 チェック&演習 物理』（数研出版）

1. 学習の目標

物理現象を理解し、数学的な用法を用いて表すことが出来るようになる。物理事象の問題を理解し、解法を導き出す能力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	身近な物理現象に興味、関心をもち、意欲的にそれらを学び、物理という学問について探求することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	6	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	7	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
2	9	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	11	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学	4	高校3年7～9組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学』(第一学習社)	『セミナー化学基礎+化学』(第一学習社) 『フォトサイエンス化学図録』(数研出版) 『大学入学共通テストチェック&演習化学』(数研出版)

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養うようにする。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心高め、物質を探究する方法を身に付ける。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。化学についての応用的・発展的な課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、化学的に探求する方法や問題解決の能力を身に付けるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得する。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第IV章 有機化合物 第2節 脂肪族炭化水素	第2節 脂肪族炭化水素の性質や反応性を学習する。 飽和炭化水素と不飽和炭化水素の反応性の相違を学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物	第3節 アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステルそれぞれの関連性について学習する。 第4節 以下の芳香族化合物について、性質や反応性の相違を学習し、また脂肪族化合物との相違についても学習する ① 芳香族炭化水素 ② フェノール類、芳香族カルボン酸 ③ 芳香族アミンとそれに付随する化合物 ④ 性質の相違を利用した分離方法	
	6 7	基礎学力到達度対策演習 一般入試基礎対策演習	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて理論化学の分野を中心に学習する。	
2	9	基礎学力到達度対策演習 一般入試基礎対策演習	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて理論化学の分野を中心に学習する。	
	10	第V章 高分子化合物 第1節 天然高分子化合物(糖類) 第2節 天然高分子化合物(タンパク質) 第3節 合成高分子化合物	第1節 単糖、二糖、多糖の性質や用途を学習する。 第2節 タンパク質とそれを構成するアミノ酸の性質を学習する。 第3節 合成繊維、合成樹脂、ゴムの用途や性質を学習する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学	4	高校3年12組(理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学基礎』（第一学習社） 『改訂 高等学校 化学』（第一学習社）	『セミナー化学基礎＋化学』（第一学習社） 『フォトサイエンス化学図録』（数研出版） 『大学入学共通テストチェック＆演習化学基礎』（数研出版） 『大学入学共通テストチェック＆演習化学』（数研出版） 『2024 化学重要問題集』（数研出版）

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養うようにする。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。化学についての応用的・発展的な課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、化学的に探求する方法や問題解決の能力を身に付けるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得する。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第Ⅴ章 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 ① 単糖・二糖 ② 多糖 ③ アミノ酸 ④ タンパク質 ⑤ 核酸 第3節 合成高分子化合物 ①特徴 ②合成繊維 ③合成樹脂 ④機能性高分子化合物 ⑤ゴム 入試対策演習Ⅰ（化学基礎）	単糖、二糖、多糖の性質や用途を学習する。 タンパク質とそれを構成するアミノ酸の性質を学習する。 プラスチックやポリエステルなどの合成された高分子の性質や用途を学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	入試対策演習Ⅱ（化学基礎）	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。（基礎理論分野）	

	6	入試対策演習Ⅲ(理論化学)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて学習する。(化学理論分野)	
	7	入試対策演習Ⅳ(無機化学)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて学習する。(化学無機分野)	
2	9	入試対策演習Ⅴ(有機化学)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて学習する。(化学有機分野)	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	入試対策演習Ⅵ(総合分野)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて総合学習する。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学	3	高校3年13組(文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学基礎』（第一学習社） 『改訂 高等学校 化学』（第一学習社）	『セミナー化学基礎＋化学』（第一学習社） 『フォトサイエンス化学図録』（数研出版） 『大学入学共通テストチェック＆演習化学基礎』（数研出版） 『大学入学共通テストチェック＆演習化学』（数研出版） 『2023 化学重要問題集』（数研出版）

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養うようにする。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。化学についての応用的・発展的な課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、化学的に探求する方法や問題解決の能力を身につけるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。 化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得する。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。科学的に探究する方法を身につけ、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第Ⅴ章 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 ① 単糖・二糖 ② 多糖 ③ アミノ酸 ④ タンパク質 ⑤ 核酸 第3節 合成高分子化合物 ①特徴 ②合成繊維 ③合成樹脂 ④機能性高分子化合物 ⑤ゴム 入試対策演習Ⅰ（化学基礎）	単糖、二糖、多糖の性質や用途を学習する。 タンパク質とそれを構成するアミノ酸の性質を学習する。 プラスチックやポリエステルなどの合成された高分子の性質や用途を学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	入試対策演習Ⅱ（化学基礎）	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。（基礎理論分野）	

	6	入試対策演習Ⅲ(理論化学)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて学習する。(化学理論分野)	
	7	入試対策演習Ⅳ(無機化学)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて学習する。(化学無機分野)	
2	9	入試対策演習Ⅴ(有機化学)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて学習する。(化学有機分野)	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	入試対策演習Ⅵ(総合分野)	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて総合学習する。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物	4	高校3学年7, 10組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副 教 材
『改訂 生物』（東京書籍）	・『新課程 セミナー 生物基礎』（第一学習社） ・『新課程 セミナー 生物』（第一学習社） ・『スクエア最新図説生物』（第一学習社） ・『新課程 チェック&演習生物基礎』（数研出版） ・『新課程 チェック&演習生物』（数研出版）

1. 学習の目標

- ・環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。
- ・生物の個体群と群集及び生態系について、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。
- ・生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付ける。

2. 評価内容

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
・生物の進化について、生命の起源と細胞の進化の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生命の起源と細胞の進化についての特徴を見いだして表現している。	・生命の起源と細胞の進化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	3 編 遺伝情報の発現と発生 3 章 遺伝子を扱う技術	・遺伝子を増幅する技術、塩基配列を解読する技術について学習する。 ・遺伝子組換え技術の利用、遺伝子や細胞を扱う技術の課題について学習する。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	4 編 生物の環境応答 1 章 動物の刺激の受容と反応	・刺激の受容から反応への流れ、ニューロンの興奮、興奮の伝導、興奮の伝達、刺激の受容と感覚、中枢神経系での情報処理、効果器について学習する。	
	6	2 章 動物の行動	・動物の行動とは、刺激の受容と行動、学習のしくみについて学習する。	
	7	3 章 植物の環境応答	・被子植物の生殖と発生、植物の一生の出来事と環境の影響、植物ホルモンと光受容体、環境要因による発芽の調節、茎や根の成長と環境要因の影響、気孔の開閉と環境要因の影響、花芽形成と環境要因の影響、果実の形成と成熟のしくみについて学習する。	

2	9	基礎学力到達度テストの範囲 生物基礎・生物全範囲	・基礎学力到達度テストに向けた問題演習	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	5 編 生態と環境 1 章 個体群と生物群集 2 章 生態系の物質生産と物質循環	・生態系からみた生物，個体群と環境，個体群の構造と成長，個体間の相互作用，種間の相互作用，生物群集の成り立ちと多種の共存について学習する。 ・食物網と物質生産，生態系の物質収支と生態ピラミッドについて学習する。(生物基礎でも学習済み)	
	11	3 章 生態系と人間生活	・生物多様性，人間社会の変化と生態系，生態系の復元，人間は自然とどう付き合っていったらよいかについて学習する。(生物基礎でも学習済み)	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合があります。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物	4	高校3学年12組（理系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『生物 改定版』（東京書籍）	『セミナー 生物』（第一学習社） 『セミナー 生物基礎』（第一学習社） 『スクエア最新図説生物』（第一学習社）， 『大学入試共通テスト チェック&演習生物』（数研出版） 『大学入試共通テスト チェック&演習生物基礎』（数研出版）

1. 学習の目標

環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。また、生物の個体群と群集及び生態系について、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、生物界の多様性と系統を理解し、進化についての考え方を身に付ける。

2. 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
・生物の進化について、生命の起源と細胞の進化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生命の起源と細胞の進化についての特徴を見いだして表現している。	・生命の起源と細胞の進化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	・生態系からみた生物、個体群と環境、個体群の構造と成長、個体間の相互作用、種間の相互作用、生物群集の成り立ちと多種の共存について学習する。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト
		2章 生態系の物質生産と物質循環	・食物網と物質生産、生態系の物質収支と生態ピラミッドについて学習する。（高校1年生で生物基礎で学習済み）	
	5	3章 生態系と人間活動	・生物多様性、人間社会の変化と生態、生態系の復元、人間は自然とどう付き合っていってよいかについて学習する。（高校1年生で生物基礎で学習済み）	
	6	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	
2	7	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト 木5テスト
	9	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	
	10	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物	4	高校3学年13組（文理特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『生物 改定版』（東京書籍）	『セミナー 生物＋生物基礎』（第一学習社）， 『スクエア最新図説生物』（第一学習社）， 『チェック＆演習生物基礎』（数研出版）， 『チェック＆演習生物』（数研出版）， 『大学入学 共通テスト 実践対策問題集』（旺文社）

1. 学習の目標

生物の個体群と群集及び生態系について、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。入試に向けて基礎及び応用力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けている。生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をし、結果から出した考えを的確に表現することができる。	生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探究する姿勢を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	生態系からみた生物、個体群と環境、個体群の構造と成長、個体間の相互作用、種間の相互作用、生物群集の成り立ちと多種の共存について学ぶ。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	2章 生態系の物質生産と物質循環 3章 生態系と人間生活	食物網と物質生産、生態系の物質収支と生態ピラミッドについて学習する。 生物多様性、人間社会の変化と生態系、生態系の復元、人間は自然とどう付き合っていいたらよいかについて学ぶ。	
	6	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	
	7	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	
2	9	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	生物基礎・生物全範囲	大学入学共通テスト・二次試験に向けた問題演習をおこなう。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理研究	2	高校3年8, 9, 10組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』（数研出版） 『総合物理Ⅱ』（数研出版）	『センサー総合物理』（啓林館）， 『新程版 大学入試センター試験対策 チェック&演習 物理』（数研出版）

1. 学習の目標

大学入学共通テスト、国公立大、難関私大に向けて標準問題、応用問題を確実に解ける実力を身に付ける。また、問題整理、立式、計算という問題解法の過程をより丁寧に素早く処理できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。毎回のレポート提出、小テストで、適切な問題の解法ができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。物理現象を、数式を用いて表し、問題を解ける。	身近な物理現象に興味、関心をもち、意欲的にそれらを学び、物理という学問について探求することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	運動と力	学習計画 ○物理研究演習実施表（初回の授業で配布する）に沿って授業の予習を行い、レポートを授業開始時に提出する。 ○授業の最初に小テストを行う。 ○小テスト後、演習問題を解き、解説する。 ○授業進度は物理の進度に応じて随時変更する。 ○大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習を行う。 学習内容 ・運動の表し方 ・落体の運動（放物運動も含む） ・力 ・運動の法則	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	運動と力	・大きさのある物体にはたらく力 ・運動量 ・円運動 ・単振動 ・万有引力	
	6	エネルギー 波動	・仕事と力学的エネルギー ・熱と電気とエネルギー ・エネルギーと資源 ・波の性質 ・波の干渉・回折・反射・屈折	
	7	波動	・音波の性質と音源の振動 ・ドップラー効果	

2	9	波動 電気と磁気	・光の性質 ・光の回折と干渉 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電流 ・基礎学力到達度に向けた入試問題演習, 及び全体の復習 ・電流と磁界	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	電気と磁気 原子・分子の世界	・電磁誘導 ・交流と電磁波 ・波動性と粒子性 ・電子と物質	
	11	原子・分子の世界	・原子核と素粒子 ・大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学研究	2	高校3年7～9組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 化学基礎』(第一学習社), 『高等学校 化学』(第一学習社)	『大学入学共通テストチェック&演習 化学基礎』(数研出版), 大学入学共通テストチェック&演習 化学』(数研出版)

1. 学習の目標

基礎学力到達度テスト, 他大受験に向けて標準問題, 応用問題を確実に解ける実力を身に付けるようにする

2. 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念・原理・法則を理解し, 知識を身に付けている。化学的な事物の探求法を身に付けている。	事象を理論的に考察し, 判断ができている。	化学的な現象の中に問題を見出し, 意欲的にそれらを探求し, 科学的な態度を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	化学基礎 第1章 物質の構成と人間生活 1. 化学と人間生活 2. 物質の構成	- 混合物と純物質, 混合物の分離, 元素, 同素体などの演習問題を行う。 - 原子の構成, 同位体, 電子配置, 価電子, 周期律, 周期表, イオン, イオンの大きさ, 分子の形成, 構造式, 電子式, 共有結合, 分子間力, 金属結晶などの演習問題を行う。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	第2章 物質の変化 1. 物質と化学反応式 2. 酸と塩基の反応	- 原子量, 分子量, 式量, 物質質量, アボガドロ定数, 溶液の濃度, 化学反応式, 量的関係, 諸法則などの演習問題を行う。 - 酸・塩基, 水の電離と水素イオン濃度, 指示薬とpHの測定, 中和, 塩, 塩の加水分解, 中和滴定, 中和滴定曲線などの演習問題を行う。	
	6	3. 酸化還元反応 化学 第1章 物質の状態と平衡	- 酸化・還元, 酸化数, 酸化剤と還元剤, 酸化還元反応式, 金属のイオン化傾向と反応性, 電池, 水溶液の電気分解, 電気分解における量的関係などの演習問題を行う。 - 気体の体積変化, 状態方程式, 理想気体と実在の気体, 溶解と溶液, 希薄溶液性質, コロイド溶液などの演習問題を行う。	
	7	第2章 物質の変化と平衡	反応熱, 熱化学方程式, ヘスの法則, 化学反応の速さと濃度・圧力・温度・触媒, 可逆変化, 平衡状態と平衡移動, 平衡定数, 電離平衡などの演習問題を行う。	

2	9	第3章無機物質	・元素の分類，水素・酸素とその化合物，希ガス，ハロゲンとその化合物，硫黄とその化合物，窒素・リンとその化合物，炭素・ケイ素とその化合物などの演習問題を行う。 ・アルカリ金属とその化合物，2族元素とその化合物，亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物の演習問題を行う。 ・遷移元素，銅とその化合物，銀とその化合物，鉄とその化合物，クロム・マンガンとその化合物，金属イオンの定性分析などの演習問題を行う。 ・基礎学力到達度に向けた入試問題演習および全体の復習を行う。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	総合問題演習	・大学入学共通テスト対策等の問題演習を2学期期末テストまで行う。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物研究	2	高校3年学7, 10組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『生物基礎 改定版』(東京書籍) 『改訂 生物』(東京書籍)	『新課程 セミナー生物基礎』(第一学習社) 『新課程 セミナー生物』(第一学習社) 『二訂版 スクエア最新図説生物』(第一学習社)

1. 学習の目標

生物基礎・生物の内容を総復習し、基礎学力到達度テストや大学共通テスト、一般入試への実力を養成する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けている。生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をし、結果から出した考えを的確に表現することができる。	生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	「生物」 生物の進化 生命現象と物質	各単元について復習を行う。 ①生物の起源と細胞の進化②遺伝子の変化と進化のしくみ③生物の系統と進化について問題演習を行う。 ④細胞と物質⑤代謝とエネルギーについての問題演習を行う。	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み
	5	遺伝情報の発現と発生	⑥遺伝情報とその発現⑦発生と遺伝子発現⑧遺伝子を扱う技術についての問題演習を行う。	
	6	「生物基礎」 ヒトの体の調節	各単元について復習を行う。 ⑨体内環境と情報伝達⑩免疫のはたらきについて問題演習を行う。	
	7	生物の多様性と生態系	⑪植生と遷移⑫生態系と生物の多様性について問題演習を行う。	
2	9	基礎学範囲 (基礎学前)	基礎学力到達度テスト対策の問題演習を行う。	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み
		生物全範囲 (基礎学後)	共通テスト対策の問題演習を行う。	
	10	生物全範囲	共通テスト対策の問題演習を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	理科研究	4	高校3学13組(文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 生物基礎』（東京書籍）， 『高等学校 化学基礎』（第一学習社）	『大学入試共通テスト対策 チェック&演習生物基礎』（数研出版） 『大学入学共通テスト対策チェック&演習化学基礎』（数研出版）

1. 学習の目標

生物基礎・化学基礎の内容を総復習し、共通テストに向けての実力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象について基本的な概念や原理法則に付いての理解を深め、知識を身につけている。さらに、観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をする。さらに、化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察してりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断や表現力が身に付けている。	生物や、生命現象に関心や探求心を持ち、主体的に探求すると主に、科学的態度を身につけている。さらに、化学的な事物・現象に関心や探究心もち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	共通テスト対策 生物基礎 1 共通テスト対策 化学基礎 1	1. 生物の特徴 生物の構造と機能、細胞とエネルギー、代謝について復習し、演習問題を解く。 2. 遺伝子とその働き 遺伝情報とDNA、遺伝情報よりタンパク質について復習し、演習問題を解く。 第1章 物質の構成と人間生活 §1 化学と人間生活 混合物と純物質、混合物の分離、元素、同素体などの演習問題を行う。 §2 物質の構成 原子の構成、同位体、電子配置、価電子、周期律、周期表、イオン、イオンの大きさ、分子の形成、構造式、電子式、共有結合、分子間力、金属結晶などの演習問題を行う。	定期試験 授業への取り組み 提出物
	5	共通テスト対策 生物基礎 2 共通テスト対策 化学基礎 2	3. 生物の体内環境 体液の恒常性。自律神経とホルモン、免疫機構について復習し、演習問題を解く。 4. 植生の多様性と分布 植生の多様性、バイオーム、生態系について復習し、演習問題を解く。 第2章 物質の変化 §1 物質質量と化学反応式 原子量、分子量、式量、物質質量、アボガドロ定数、溶液の濃度、化学反応式、量的関係、諸法則などの演習問題を行う。	

1	6	共通テスト対策 生物基礎 3	5. 生態系とその保全 生態系における物質の流れ, 保全に関する演習 問題を解く。	定期試験 授業への取り組み 提出物
		共通テスト対策 化学基礎 3	§ 2 酸と塩基の反応 酸・塩基, 水の電離と水素イオン濃度, 指示薬と pH の測定, 中和, 塩, 塩の加水分解, 中和滴定, 中和滴 定曲線などの演習問題を行う。	
2	9	共通テスト対策 生物基礎 4	6. 共通テストの過去問, 演習問題を解く①。	定期試験 授業への取り組み 提出物
		共通テスト対策 化学基礎 4	§ 3 酸化還元反応 酸化・還元, 酸化数, 酸化剤と還元剤, 酸化還元反応 式, 金属のイオン化傾向と反応性, 電池, 水溶液の電 気分解, 電気分解における量的関係などの演習問題 を行う。	
	10	共通テスト対策 生物基礎 5	7. 共通テストの過去問, 演習問題を解く②。	
		共通テスト対策 化学基礎 5	§ 4 共通テスト対策実践演習 共通テストの過去問, 演習問題を解き, 実践力の 向上を行う。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	体育	3	高校3学年 全クラス

使用教科書	副教材
『ステップアップ高校スポーツ 2022』(大修館書店)	『新版 健康手帳』(大修館書店)

1. 学習の目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意して活動できるようにする。さらに、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を獲得する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自己の身体や動きに対する意識・知覚を養い、種目の特性に応じた技能を身につけている。	自己の能力・適性や関心に応じた種目選択をし、課題解決のための練習方法等を自ら計画し、実践している。	各種目の特性に関心をもち、自ら選び、自ら学ぶ意欲で生涯スポーツと結びつけ、積極的に参加することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
	4	○体づくり運動 ・ラジオ体操 ・集団行動 ・新体力テスト	ラジオ体操第一 整列、方向転換、人員点呼、列の増減、行進等 50m 走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、 長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験
	5	○球技Ⅰ（選択制） ・バスケットボール ・ソフトボール ・ハンドボール	ルールの理解 個人技能の導入・習熟度向上 （投球・打球・捕球・ドリブルなど）	
	6	○球技Ⅰ（選択制） ・バスケットボール ・ソフトボール ・ハンドボール	個人技能の習熟度向上 （投球・打球・捕球・ドリブルなど） 集団技能の導入・習熟度向上 （攻撃陣の形成、戦術のパターン化） 試合等	
	7	○球技Ⅰ（選択制） ・バスケットボール ・ソフトボール ・ハンドボール	実技試験	
2	9	○球技Ⅱ（選択制） ・ソフトテニス ・バレーボール ・卓球 ○体育理論 豊かなスポーツライフの設計 1 生涯スポーツの見方・考え方	ルールの理解 個人技能の習熟度向上 （投球・打球・ストロークなど） 社会の変化とスポーツの役割 ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験

2	10	○球技Ⅱ（選択制） ・ソフトテニス ・バレーボール ・卓球 ○体育理論 豊かなスポーツライフの設計 2 ライフスタイルに応じたスポーツ 3 スポーツを推進する取り組み 4 豊かなスポーツライフの創造	個人技能の習熟度向上 （投球・打球・ストロークなど） 集団技能の導入・習熟度向上 （ダブルスの攻防展開、攻守におけるチーム戦術） 試合等 いろいろなスポーツライフスタイル 豊かなスポーツライフの設計 日本のスポーツ振興の歩み 地域とスポーツクラブ 日本のスポーツライフの特徴 豊かなスポーツライフの創造のために ※体育理論は天候等に応じ適宜実施	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験
	11	○球技Ⅱ（選択制） ・ソフトテニス ・バレーボール ・卓球	実技試験	
	12			
3	1			
	2			
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語コミュニケーションⅢ	4	高校3年1組

使用教科書	副教材
『Heartening English CommunicationⅢ』(桐原書店)	『Mileage Reader 5』(いっしゅな書店) 『Reading Express Book3』(Z会)

1. 学習の目標

英語で書かれている文章を速く読み、内容を正確に理解する。また論理的に文章の構成を考える力を身につけ、このことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。音読活動により、単語や文法知識の定着、速読、「聞く・話す・読む・書く」といった4技能を高める。様々な分野の英文を読むことにより視野を広げ語彙力も増やす。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。また、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 Heartening Mileage Reader Reading Express	L. 1 What Makes Up Your Identity? L. 1 1	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	Heartening Mileage Reader Reading Express	L. 2 Predicting Future Technology L. 3 The Science of Sleep L. 2 L. 3 2 3	
	6	Heartening Mileage Reader Reading Express	L. 4 Diversity and Inclusion L. 5 Protein Crisis L. 4 L. 5 4 5	
	7		復習	
2	9	基礎学力到達度テスト対策 Heartening Mileage Reader Reading Express	L. 6 Different Types of Happiness L. 6 6	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	Heartening Mileage Reader Reading Express	L. 7 Pros and Cons of Utilizing AI L. 8 Kintsugi: The Art of Embracing the Imperfect L. 7 L. 8 7 8	
	11	Heartening Mileage Reader Reading Express	L. 9 Getting Your Message Across L.10 Medical Ethics During a Pandemic L. 9 L.10 9 10	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語コミュニケーションⅢ	4	高校3年1組～10組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『Heartening English CommunicationⅢ』(桐原書店)	『Front Runner 2』(数研出版) 『The Levels 2』(旺文社)

1. 学習の目標

英語で書かれている文章を速く読み、内容を正確に理解する。また論理的に文章の構成を考える力を身につけ、このことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。音読活動により、単語や文法知識の定着、速読、「聞く・話す・読む・書く」といった4技能を高める。様々な分野の英文を読むことにより視野を広げ語彙力も増やす。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。また、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 Heartening Front Runner	L. 1 What Makes Up Your Identity? L. 1 国際経済 L. 2 環境	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	Heartening Front Runner	L. 2 Predicting Future Technology L. 3 The Science of Sleep L. 3 エッセイ L. 4 科学 L. 5 国際社会 L. 6 科学・生物	
	6	Heartening Front Runner	L. 4 Diversity and Inclusion L. 5 Protein Crisis L. 7 経済 L. 8 国際文化 L. 9 社会 L.10 文化・歴史	
	7		復習	
2	9	Heartening Front Runner	L. 6 Different Type of Happiness L. 7 Pros and Cons of Utilizing AI L.11 環境 L.12 科学・生物 L.13 心理学 L.14 生物	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	Heartening Listening Laboratory The Levels	L. 8 The Art of Embracing the Imperfect L. 9 Getting your Message Across L.15 社会 L. 1 人間関係 L. 2 コミュニケーション L. 3 教育	
	11	Heartening The Levels	L.10 Medical Ethics During a Pandemic L. 4 国際社会 L. 5 人間関係	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語コミュニケーションⅢ	4	高校3年13組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
Heartening English Communication Ⅲ (桐原書店)	『Neo 現代を探索』(いっずな書店) 『速読英単語 上級編』(Z-KAI)

1. 学習の目標

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えを的確に理解する能力を習得する。また、共通テストに向けて英文を速読 (200 語/1 分が目安) し、論理的に文章の構成を考える総合的な力を身につけることを目標とする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
多義にわたる内容の英文を読んだり、聴いたりすることで、世界の文化の背景や価値観の違い、歴史などを理解する。	文章の構造を理解し、効率よく的確に内容を把握し、自らのものとの違いを認識し認めようとする力を身につける。	積極的な言語活動に関心を持ち、未来への考察に取り組み、人間社会の中の様々な問題を解決しようとする。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Heartening 速読英単語	基礎学対策演習 Reading & Writing Strategy Lesson 1 What Makes up Your Identity?(対話文・記録文) Lesson 2 Predicting Future Technology (講演・説明文) Stage 1 (言語・心理)	授業への取り組み 定期試験 小テスト (筆記・音読)
	5	Heartening 速読英単語 Neo 現代を探索	Lesson 3 The Science of Sleep(インタビュー・論証文) Lesson 4 Diversity and Inclusion (ニュース・意見文) Stage 2 (人間社会) Unit1(Industry/business) Unit 2(Industry/Business) Unit 3(Culture)	
	6	Heartening 速読英単語 Neo 現代を探索	Lesson 5 Protein Crisis(対話・説明文) Lesson 6 Different Types of Happiness(ニュース・説明文) Lesson 7 Pros and Cons of Utilizing AI (ディベート・説明文) Stage 3 (社会・医療) Unit 4(Culture) Unit 5(Culture) Unit 6(World) Unit 7(Worl	
	7	Heartening 速読英単語 Neo 現代を探索	Lesson 8 Kintsugi:The Art of Embracing the Imperfect(インタビュー・説明文) Lesson 9 Getting Your Message Across (講演・論証文) Lesson 10 Medical Ethics During a Pandemic (会話文・記録説明文) Stage 4 (環境・科学) Unit 8 (Creature) Unit 9 (Creature) Unit 10 (Health) Unit 11 ~ 20 は夏休暇の課題	
2	9	速読英単語 入試の過去問題プリント	Stage 5 (人間) 復習テスト	授業への取り組み 定期試験 小テスト (筆記・音読)
	10	速読英単語 入試の過去問題プリント	復習テスト 記述形式の解答方法	
	11	速読英単語 国公立過去問題プリント	復習テスト 記述形式の解答方法	

※ 進度によって内容を変更することがあります。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語コミュニケーションⅢ	5	高校3学年11組 (文系特別進学クラス) 高校3学年12組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『Heartening English Communication III』(桐原書店)	『NEO 現代を語る』(いっずな書店) 『速読英単語上級編』(Z会)

1. 学習の目標

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えを的確に理解する能力を習得する。また、大学入試に向けて、英文の構成を理解し論理的に考える総合的な力を身につけることを目標とする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
多岐にわたる分野の英文を読んだり聞いたりすることで語法・表現法を習得している。	論理的に文章を読み、その内容を効率的に理解するとともに、それに対する自分の意見を英語で表現している。	言語活動に積極的に取り組み、英語を通して様々な世界状況を理解しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	HEARTENING 速読英単語上級編	基礎学対策演習 Lesson 1 What Wakes Up Your Identity? (アイデンティティ) Lesson 2 Predicting Future Technology (科学技術) Stage 1	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	HEARTENING 現代を語る 速読英単語上級編	Lesson 3 The Science of Sleep (睡眠) Lesson 4 Diversity and Inclusion (多様性) Unit 1～5 Stage 2	
	6	HEARTENING 現代を語る 速読英単語上級編	Lesson 5 Protein Crisis (食糧問題) Lesson 6 Different Types of Happiness (SDGs) Unit 6～10 Stage 3	
	7	現代を語る	Unit 11～15	
2	9	HEARTENING 現代を語る 速読英単語上級編	Lesson 7 Pros and Cons of Utilizing AI (科学技術) Lesson 8 Kintsugi: The Art of Embracing the Imperfect (SDGs) Unit 16～20 Stage 4	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	HEARTENING 速読英単語上級編 入試問題演習	Lesson 9 Getting Your Message Across (講演) Lesson 10 Medical Ethics During a Pandemic (医療) Stage 5	
	11	入試問題演習		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現Ⅲ	4	高校3年1組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Standard』 （数研出版）	『Workbook for Practice シニアコース』（数研出版） 『HyperListening 4th Edition』（桐原書店） 『英単語ターゲット1400』（旺文社）

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域（話すこと、聞くこと、書くこと）ができるように、「音声」、「語、連語及び慣用表現」及び「文構造及び文法事項」のうち、ふさわしいものを理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を読んだり聞いたりして得られた情報や考えなどを活用しながら、目的や場面、状況などに応じて情報、概要、要点を捉え、表現する。	思考・判断・表現の活動に粘り強く取り組む。 学習に対する目的意識を持ち、見通しを立て、適宜振り返りを行い、自覚的に学習に取り組む。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Workbook for Practice HyperListening 英単語ターゲット	基礎学力到達度テスト対策 1, 2 Lesson 1～2 Section 1～3	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	5	Workbook for Practice HyperListening 英単語ターゲット	3～7 Lesson 3～7 Section 4～6	
	6	Workbook for Practice HyperListening 英単語ターゲット	8～13 Lesson 8～13 Section 7～9	
	7	Workbook for Practice HyperListening 英単語ターゲット	14 Lesson 14 Section 10～12（夏季課題）	
2	9	Workbook for Practice	15～18	定期試験 授業への取り組み 小テスト

		HyperListening	Lesson 15～18	提出物等
		英単語ターゲット	Section 13～14	
	10	Workbook for Practice	19～20	
		HyperListening	Lesson 19～20	
		英単語ターゲット	全範囲まとめ	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現Ⅲ	4	高校3年2組～10組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression III Standard』（数研出版）	『スクランブル英文法・語法 Basic 3rd Edition』（旺文社） 『Viewpoint Advanced』（数研出版） 『HyperListening 4th Edition』（桐原書店） 『速読英単語』（Z会）

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域（話すこと、聞くこと、書くこと）ができるように、「音声」、「語、連語及び慣用表現」及び「文構造及び文法事項」のうち、ふさわしいものを理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を読んだり聞いたりして得られた情報や考えなどを活用しながら、目的や場面、状況などに応じて情報、概要、要点を捉え、表現する。	思考・判断・表現の活動に粘り強く取り組む。 学習に対する目的意識を持ち、見通しを立て、適宜振り返りを行い、自覚的に学習に取り組む。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	スクランブル英文法・語法 Viewpoint HyperListening 速読英単語	基礎学力到達度テスト対策 ランダム問題 1, 2 Lesson 1～2 1～10	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	5	スクランブル英文法・語法 Viewpoint HyperListening 速読英単語	ランダム問題 3, 4, 5 Lesson 3～7 11～20	
	6	スクランブル英文法・語法 Viewpoint HyperListening 速読英単語	ランダム問題 6, 7, 8, 9 Lesson 8～13 21～30	
	7	スクランブル英文法・語法 Viewpoint HyperListening	ランダム問題 10 Lesson 14	

		速読英単語	31～60（夏季課題）	
2	9	スクランブル英文法・語法 Viewpoint HyperListening 速読英単語	ランダム問題 11, 12, 13 Lesson 15～18 61～70	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	10	スクランブル英文法・語法 Viewpoint HyperListening 速読英単語	ランダム問題 14, 15 Lesson 19～20 全範囲まとめ	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現Ⅲ	4	高校3年12組（理系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression III Standard』（数研出版）	『スクランブル英文法・語法 4th Edition』（旺文社） 『Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 standard』（数研出版） 『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』（Z会） 『共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes』（Z会） 『共通テスト 10分リスニングプレノート』（数研出版） 『速読英熟語』（Z会）

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。難関大学入試における和訳問題への対応力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域（話すこと、聞くこと、書くこと）ができるように、「音声」、「語、連語及び慣用表現」及び「文構造及び文法事項」のうち、ふさわしいものを理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を読んだり聞いたりして得られた情報や考えなどを活用しながら、目的や場面、状況などに応じて情報、概要、要点を捉え、表現する。	思考・判断・表現の活動に粘り強く取り組む。 学習に対する目的意識を持ち、見通しを立て、適宜振り返りを行い、自覚的に学習に取り組む。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes 速読英熟語	基礎学力到達度テスト対策 ランダム問題 Lesson 1～2 1, 5, 9, 13, 17 5, 10, 15, 20, 25 1～10	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 共通テスト 10分リスニングプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 3～5 21, 25, 29, 2, 6, 1, 2, 3, 10, 11 11～20	

	6	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 6～9 10, 14, 18, 22, 26 12, 4, 5, 6, 13 21～30	
	7	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 10 30 (3, 7, 11, 15, 19, 23 夏季課題) 14 (15, 7, 8, 9 夏季課題) (31～54 夏季課題)	
2	9	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 11～13 27, 31, 4, 8, 12, 16 16, 17, 18, 19, 20 55～64	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 14～15 20, 24, 28, 32, 33, 34 21, 22, 23, 24 65～74	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現Ⅲ	4	高校3年13組（文理特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression III Standard』 (数研出版)	『スクランブル英文法・語法 4th Edition』(旺文社) 『Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 standard』 (数研出版) 『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』(Z会) 『共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes』(Z会) 『共通テスト 10分リスニングプレノート』(数研出版) 『速読英熟語』(Z会)

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。難関大学入試における和訳問題への対応力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域（話すこと、聞くこと、書くこと）ができるように、「音声」、「語、連語及び慣用表現」及び「文構造及び文法事項」のうち、ふさわしいものを理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を読んだり聞いたりして得られた情報や考えなどを活用しながら、目的や場面、状況などに応じて情報、概要、要点を捉え、表現する。	思考・判断・表現の活動に粘り強く取り組む。 学習に対する目的意識を持ち、見通しを立て、適宜振り返りを行い、自覚的に学習に取り組む。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes 速読英熟語	基礎学力到達度テスト対策 ランダム問題 Lesson 1～2 1, 5, 9, 13, 17 5, 10, 15, 20, 25 1～10	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 共通テスト 10分リスニングプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 3～5 21, 25, 29, 2, 6, 1, 2, 3, 10, 11 11～20	

	6	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 6～9 10, 14, 18, 22, 26 12, 4, 5, 6, 13 21～30	
	7	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 10 30 (3, 7, 11, 15, 19, 23 夏季課題) 14 (15, 7, 8, 9 夏季課題) (31～54 夏季課題)	
2	9	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 11～13 27, 31, 4, 8, 12, 16 16, 17, 18, 19, 20 55～64	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニン グプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 14～15 20, 24, 28, 32, 33, 34 21, 22, 23, 24 65～74	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現Ⅲ	5	高校3年11組（文系特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression III Standard』（数研出版）	『スクランブル英文法・語法 4th Edition』（旺文社） 『Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 standard』（数研出版） 『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』（Z会） 『共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes』（Z会） 『共通テスト 10分リスニングプレノート』（数研出版） 『速読英熟語』（Z会）

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。難関大学入試における和訳問題への対応力を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域（話すこと、聞くこと、書くこと）ができるように、「音声」、「語、連語及び慣用表現」及び「文構造及び文法事項」のうち、ふさわしいものを理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を読んだり聞いたりして得られた情報や考えなどを活用しながら、目的や場面、状況などに応じて情報、概要、要点を捉え、表現する。	思考・判断・表現の活動に粘り強く取り組む。 学習に対する目的意識を持ち、見通しを立て、適宜振り返りを行い、自覚的に学習に取り組む。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 共通テストドリル 英語リスニング 10 minutes 速読英熟語	基礎学力到達度テスト対策 ランダム問題 Lesson 1～2 1, 5, 9, 13, 17, 21, 25 5, 10, 15, 20, 25 1～10	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 共通テスト 10分リスニングプレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 3～5 29, 2, 6, 10, 14, 18, 22 1, 2, 3, 10, 11 11～20	

	6	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニング プレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 6～9 26, 30, 3, 7, 11, 15, 19 12, 4, 5, 6, 13 21～30	
	7	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニング プレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 10 23 14 (15, 7, 8, 9 夏季課題) (31～54 夏季課題)	
2	9	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニング プレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 11～13 27, 31, 4, 8, 12, 16 16, 17, 18, 19, 20 55～64	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	スクランブル英文法・語法 Clues to Reading 共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes 共通テスト 10 分リスニング プレノート 速読英熟語	ランダム問題 Lesson 14～15 20, 24, 28, 32, 33, 34 21, 22, 23, 24 65～74	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語特講	3	高校3学年12組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
	『SKYWARD CLOUDS Course』(桐原書店)

1. 学習の目標

幅広いジャンルの英文の内容を理解し、個々の英文の理解だけでなく、総合的な思考力を問う長文問題を解けるようにし、難関大学入試に対応できる力をつける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
多岐にわたる分野の英文を読んだり聞いたりすることで語法・表現法を習得している。	論理的に文章を読み、その内容を効率的に理解するとともに、それに対する自分の意見を英語で表現している。	言語活動に積極的に取り組み、英語を通して様々な世界状況を理解しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	SKYWARD	Unit 1 メディアリテラシー Unit 2 資料の読み取り Unit 3 大衆文化 Unit 4 人類学	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	SKYWARD	Unit 5 心理学 Unit 6 娯楽	
	6	SKYWARD	Unit 7 生物 Unit 8 社会生活 Unit 9 日本文化 Unit10 健康・医学 Unit11 実用文	
	7	SKYWARD	Unit12 科学技術	
2	9	SKYWARD	Unit13 教育 Unit14 自然環境 Unit15 エッセイ Unit16 日常生活	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	SKYWARD	Unit17 環境論 Unit18 ノンフィクション	
	11	SKYWARD	Unit19 言語	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な探究の時間		1	高校3学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	Classi「ポートフォリオ」機能

1. 学習の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
--

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されている。	探究の過程において発揮され、未知の条項においても活用できるものとして身に着けている。 学んだり、調べたりした内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べる能够做到。与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができている。	課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができている。また、グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意志を伝達することができている。グループ活動において、よりよい成果をあげるために、お互いを尊重することができている。 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	進路研究（通年）	他大学・各種学校説明会 日大学部説明会・受験ガイダンス、三者面談、実力テスト・模擬試験・共通テストプレテスト等を利用して、進路研究を行う。（16時間）	授業への取り組み ポートフォリオ入力
	5			
	6	日藤祭	クラスの催しやクラブ活動の発表・展示等を準備日も含め、3日間にかけて行う。（9時間）	
	7	水泳球技大会	本校プール・体育館等にて、中学・高校全体の水泳球技大会を行う。（4時間）	
2	9			授業への取り組み ポートフォリオ入力
	10			
	11	体育祭	本校NFグラウンドにて、中学・高校全体の体育祭を行う。（6時間）	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。